

荒城遺跡

平成13年度箕輪町町営住宅建替事業に伴う
埋蔵文化財第2次緊急発掘調査報告書

2002年

長野県上伊那郡箕輪町教育委員会

荒城遺跡

平成13年度箕輪町町営住宅建替事業に伴う
埋蔵文化財第2次緊急発掘調査報告書

2002年

長野県上伊那郡箕輪町教育委員会



4号住居址焼土等出土状況（西から）



4号住居址出土双口土器

序

箕輪町は、伊那谷の北部、歴史の古い落原の里にあり、南北に連なる東西の山々と、そこから流れる中小河川、そしてそれらが流れ込む天竜川によって形成された、扇状地や河岸段丘などによる複雑な地形が織りなす、水と緑の自然あふれる美しい所です。その中でも、荒城遺跡の位置する長岡地籍は、沢川によって形成された扇状地で、地味の良い肥沃な土地として知られ、古代から高い生産性があったものと推測できます。また、一帯には数多くの古墳が存在し、町内における古墳の半数以上が集中する、いわゆる長岡古墳群を形成しています。このように古くから歴史性豊かな場所であり、西に面する自然地形は、人々の生活に適した条件を備えていました。

本書は、町が行う町営住宅建替事業（長岡）に先だって、町教育委員会が実施しました、荒城遺跡の第2次緊急発掘調査の報告書です。昨年行われた第1次調査では、調査地内の一部は破壊されているものの、貴重な遺跡が残っていることが判明し、学術的に町の歴史を知るうえで、貴重な資料を得ることができます。本年度の第2次調査では、昨年の調査地の西に隣接する面積650m²を調査し、昨年を上回る遺構・遺物を確認し、大きな成果を得ることができました。また、全国的にも珍しい、縄文時代前期の双口土器を確認することができました。

内容につきましては、本書の中で詳細に記してあります。多くの皆様に広く活用され、郷土の歴史解明の一助になれば幸いに存じます。

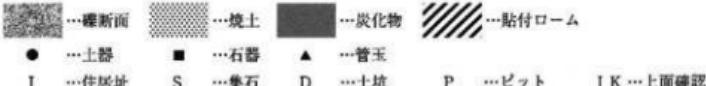
最後になりましたが、今回の調査の実施と本書の作成に際しまして、ご理解とご協力をいただきました地元長岡区の皆様はじめ、調査関係者の皆様方に、本書の刊行をもちまして心から感謝申し上げます。

箕輪町教育委員会
教育長 大槻 武治

例 言

- 1 本書は、平成13年度に実施した、長野県上伊那郡箕輪町大字東箕輪769番地3他に所在する、荒城遺跡の第2次緊急発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、箕輪町役場建設課の委託を受けて、箕輪町教育委員会が行った。
- 3 本書の作成にあたり、作業分担を以下のとおり行った。
遺物の洗浄・注記—伊藤敏明、大串久子、金沢 蘭、小島竜矢、中村 節、福沢幸一、根橋みづは
遺物の接合・復元—池上賢司、遠藤恵実子、大串久子、金沢 蘭、根橋とし子、福沢幸一
遺構図の整理・トレース—池上賢司、金沢 蘭、柴 秀穂、根橋とし子
遺物の実測・拓本・トレース—池上賢司、伊藤敏明、遠藤恵実子、大串久子、金沢 蘭、根橋とし子、
福沢幸一
挿図作成—池上賢司、金沢 蘭、根橋とし子
写真撮影・図版作成—池上賢司、柴 秀穂
- 4 本書の執筆は、柴 秀穂、根橋とし子、池上賢司が行った。
- 5 本書の図版は、柴 秀穂、根橋とし子、池上賢司、遠藤恵実子、金沢 蘭、福沢幸一が行った。
- 6 出土遺物及び図版類は、すべて箕輪町教育委員会が保管しているので広く活用されたい。
- 7 調査及び本書の作成にあたり、下記の方々並びに機関からご指導ご協力をいただいた。記して感謝申し上げる。
個人—赤堀 仁、赤羽義洋、赤松 茂、出河裕典、臼居直之、小笠原岳大、川崎 保、倉田 誠、
小池 孝、清水俊彦、名取登美夫、賛田 明、西澤和人、野沢誠一、原田昌幸、樋口昇一、
三上徹也、宮坂光昭、福島 永、丸山敷一郎
機関—木曾広域連合、県遺跡調査指導委員、長野県埋蔵文化財センター、長岡区、長岡区新城常会、長野県教育委員会

凡 例

- 1 遺構実測図は、以下の縮尺に統一した。
住居址1:40、1:60 住居址ピット1:60 集石1:40 土坑1:40 ピット1:40
- 2 遺物の実測図及び拓影図は、以下の縮尺に統一した。
土器実測図1:4 土器拓影図1:3 石器実測図2:3、1:2、1:3、1:6
- 3 土層及び土器の色調は、「新版 標準土色帖」を用いて記してある。
- 4 遺構実測図におけるスクリーントーン及び記号による表示は、以下のものを表す。


…縦断面	…焼土	…炭化物	…貼付ローム
● …土器	■ …石器	▲ …菅玉	
J …住居址	S …集石	D …土坑	P …ピット
			J K …上面確認
- 5 出土土器実測図における土器の接合状況は、観察できるもののみ断面に表示してある。
- 6 出土土器実測図・拓影図における○ナンバーは彩色土器を示す。
- 7 出土石器実測図におけるスクリーントーン表示は、以下のものを表す。

- 8 出土石器観察表の重量の単位はグラム(g)で表している。法量はすべて最大値である。また、現存する数値は「()」で、「-」は計測不能を表している。
- 9 図版の出土遺物の数字は、挿図における遺物番号を表す。

本文目次

卷頭カラー図版

序

例 言・凡 例

本文目次

挿図目次・表目次・図版目次

第Ⅰ章 発掘調査の概要	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査概要	2
第3節 調査の経過（調査日誌から）	2
第Ⅱ章 遺跡の環境	4
第1節 地形と地質	4
第2節 歴史環境	5
第Ⅲ章 調査結果	7
第1節 調査の方法と結果概要	7
第2節 遺跡の層序	8
第Ⅳ章 遺構と遺物	11
第1節 壁穴住居址	11
第2節 集 石	16
第3節 土 坑	19
第4節 ピット	19
第5節 出土遺物	20
第Ⅴ章 まとめ	56
図 版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図 調査位置図	1	第17図 出土土器拓影図1	38
第2図 周辺遺跡分布図	6	第18図 出土土器拓影図2	39
第3図 調査区設定図	7	第19図 出土土器拓影図3	40
第4図 調査区土層断面図	8	第20図 出土土器拓影図4	41
第5図 全体図	9・10	第21図 出土土器拓影図5	42
第6図 2・4号住居址実測図	12	第22図 出土石器実測図1	43
第7図 4号住居址焼土・炭化物の範囲と遺物 出土状況 4号住居址実測図	13・14	第23図 出土石器実測図2	44
第8図 集石実測図	18	第24図 出土石器実測図3	45
第9図 土坑実測図1	25	第25図 出土石器実測図4	46
第10図 土坑実測図2	26	第26図 出土石器実測図5	47
第11図 土坑実測図3	27	第27図 出土石器実測図6	48
第12図 ピット実測図1	27	第28図 出土石器実測図7	49
第13図 ピット実測図2	28	第29図 出土石器実測図8	50
第14図 出土土器実測図1	35	第30図 出土石器実測図9	51
第15図 出土土器実測図2	36	第31図 出土石器実測図10	52
第16図 出土土器実測図3	37	第32図 出土石器実測図11	53
		第33図 出土石器実測図12	54
		第34図 出土石器実測図13	55

表 目 次

第1表 周辺遺跡一覧表	5	第4表 ピット一覧表	30
第2表 遺構番号変更表	24	第5表 石器観察表	32
第3表 土坑一覧表	29		

図版目次

巻頭カラー図版 4号住居址焼土等出土状況、4号住居址出土双口土器

図版1 調査地全景、調査区土層堆積状況、2号住居址

図版2 4号住居址、4号住居址 双口土器出土状況

図版3 1・2・3・4・5・6・7・8号集石

図版4 18・19・26・30・34・35・36号土坑、30号土坑焼土出土状況

図版5 4号住居址出土土器、19号土坑出土土器

図版6 出土土器、4号住居址出土炭化材

図版7 出土北白川下層式土器、出土土器片、出土石器

図版8 出土石鎚、石匙・石錐・石核・スクレイバー、出土玦状耳飾、出土管玉・装飾品、4号住居址8号ピット出土石皿・台石、出土黒曜石など

第Ⅰ章 発掘調査の概要

第1節 調査に至る経過

荒城遺跡が所在する長岡区は、東方の山麓から流れる沢川によって形成された扇状地にあり、土地が肥沃であるため、古くから人々の生活の舞台であった。周辺には縄文・古墳時代などの多くの遺跡地帯が広がり、「羽場の森古墳」をはじめとするいくつもの古墳が現存する。

箕輪町は、老朽化した町営住宅（長岡）建替事業を計画し、平成12・13年度に3棟の町営住宅を建設することになった。しかし、この建設予定地を含む地域は、縄文時代の遺跡として知られる荒城遺跡の範囲内であり、これまでに多くの遺物が確認されてきた。また、中世の城跡があったとされる場所でもある。開発予定地内にも、これらの時代の埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることから、町の開発担当部局と町教育委員会の間で協議を行い、建替事業を行う前に、記録保存を目的とした発掘調査を実施する運びとなった。平成12年度には面積約880m²を調査し、縄文時代の遺構・遺物を確認した。今回の調査地はこのすぐ西に隣接し、遺構・遺物があることが予測されたため、平成12年度に引き続き、建設に先立ち発掘調査を実施し、記録保存を行う運びとなつた。



第1図 調査位置図 (1:20,000)

第2節 調査概要

1 遺跡名	荒城遺跡						
2 所在地	長野県上伊那郡箕輪町大字東箕輪769番地3他						
3 事業期間	平成13年5月11日～13年8月23日（調査） 平成13年8月24日～14年3月22日（整理）						
4 事務局							
教育長	大槻 武治						
文化財課長	柴 登巳夫						
係長	原 省吾						
係員	日野 和政	柴 秀穂					
臨時職員	柴 チエ子	中坪 恵子					
5 調査団							
調査団長	大槻 武治						
調査副団長	柴 登巳夫						
調査担当者	柴 秀穂						
調査員	根橋とし子	福沢 幸一					
調査参加者	池上 賢司	市川 俊男	井上 隆次	大槻 茂範	小川 陽三	春日 誠子	
	片桐 勇	金沢 蘭	後藤 主計	小松 峰人	小島 竜矢	佐野 正俊	
	田中 忠男	中村 節	藤沢 具明	伯耆原 正	洞口 秋人	堀 五百治	
	堀内 昭三	根橋みづほ	松田 貴一	向山幸次郎	向山 英人	山田 武志	
	吉川 正剛						

第3節 調査の経過（調査日誌から）

- 5月11日（金） コンテナハウス、トイレの搬入等、調査の準備を行う。
- 5月14日（月） 調査団の結団式を行う。D区において重機による表土はぎを行う。
- 5月15日（火）～17日（木） D区遺構検出作業。
- 5月18日（金） 遺構検出作業。調査区中央より黒色土を確認するもプランが分からぬため、仮3号住居址として十字にサブトレチを設定する。
- 5月21日（月） サブトレチの掘り下げ。仮3号住居址北東より1号集石を確認。土坑等半カット。
- 5月22日（火） 各遺構の掘り下げ、土層断面測量等。
- 5月28日（月） 各遺構の掘り下げ、写真撮影、測量。仮3号住居址サブトレチでは床面を確認できず。ベルト部分を残して掘り下げるとしている。
- 5月29日（火） 各遺構の掘り下げ、写真撮影、測量。
- 5月30日（水） 各遺構の掘り下げ、写真撮影、測量。全体測量用のポイント設定。
- 6月1日（金） 各遺構の掘り下げ、写真撮影、測量。全体測量用のポイント設定。
- 6月4日（月）～7日（木） 各遺構の掘り下げ、写真撮影、測量。
- 6月8日（金） 集石の測量。
- 6月11日（月） 各遺構の掘り下げ、写真撮影、測量。

- 6月12日（火） 各遺構の掘り下げ、写真撮影、測量。仮3号住居址掘り下げ面にサブトレンチを設定し、さらに掘り下げたところ、深さ40~50cmにおいて、焼土及び床面らしき硬化面と立ち上がりを確認。この付近より諸磯a式の土器が多く出土する。
- 6月18日（月） 宮田村教育委員会の小池孝氏に現場を見ていただき、ご指導をいただく。仮3号住居址は住居ではないと判断し、その下の焼土を伴う床面をもつ遺構を4号住居址とする。
(遺物については出土地点を仮3号住居址とした上で、4号住居址の中に含めて整理した。)
- 6月21日（木） 4号住居址掘り下げ。出土遺物は高さによって上・中・下に分けて取り上げる。
- 6月22日（金） ~28日（木） 各遺構の掘り下げ、写真撮影、測量。
- 6月29日（金） 長野県埋蔵文化財センター川崎保氏に現場を見ていただき、ご指導をいただく。この日の午後、珍しい土器（双口土器）を確認し、写真撮影、測量を行い取り上げる。
- 7月2日（月） ~3日（火） 4号住居址焼土の測量。
- 7月5日（木） 午後、樋口昇一氏、文化庁原田昌幸氏、県文化財生涯学習課出河裕典氏に現場及び土器を見ていただき、ご指導をいただく。夕方、三上徹也氏に現場及び土器を見ていただき、ご指導をいただく。
- 7月6日（金） 4号住居址内ピット等半カット、断面測量、写真撮影。8号ピットから、黒曜石チップが多く出土する。また、8号ピット付近の床に高まりが見られる。
- 7月9日（月） 4号住居址内ピット完掘、完掘写真撮影。
- 7月10日（火） 4号住居址平面測量。
- 7月11日（水） 測量作業。
- 7月12日（木） D区全体写真撮影。D区の作業を終了する。
- 7月16日（月） 調査区内の廃土は全て搬出できることとなり、重機によりD区の廃土を搬出する。また引き続きE区の表土はぎ（土は搬出）を行う。
- 7月17日（火） E区表土はぎ。
- 7月18日（水） E区表土はぎ。E区は旧町営住宅建設時の工事による破壊が大きい。
- 7月19日（木） 木曾広域連合の贊田明氏に現場及び土器を見ていただき、ご指導をいただく。
- 7月23日（月） E区遺構検出作業。
- 7月24日（火） E区遺構検出作業。土坑・ピット等半カット。
- 7月25日（水） 各遺構の掘り下げ、写真撮影、測量。県遺跡調査指導委員宮坂光昭氏ら現地を視察。
- 7月26日（木） 各遺構の掘り下げ、写真撮影、測量。
- 7月27日（金） 各遺構の掘り下げ、写真撮影、測量。E区中央カクランから有舌尖頭器？が出土する（後で有茎の石錐に分類整理する）。
- 7月30日（月） 各遺構の掘り下げ、写真撮影、測量。伊那弥生ヶ丘高校赤塩仁氏現地を視察。
- 7月31日（火） 調査区北壁面写真撮影、測量。各遺構写真撮影、測量。
- 8月1日（水） 調査区南壁面写真撮影、測量。遺構平面測量。
- 8月2日（木） 全体測量。4号住居址8号ピット付近の床の高まりは、貼ってあることが判明する。
- 8月6日（月） 全体写真撮影。4号住居址8号ピット完掘、平面測量等。
- 8月7日（火） ~8日（水） 測量作業。
- 8月10日（金） 午前中、双口土器が出土したことを発表する。
- 8月11日（土） 現地見学会を行う。
- 8月14日（火） 道具の片付け等。
- 8月20日（月） トイレの汲み取り。
- 8月23日（木） コンテナハウス、トイレの撤収。すべての現場作業を終了する。

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 地形と地質

箕輪町は、東は赤石山脈、西は木曾山脈に囲まれ、南北70kmにも及ぶ伊那盆地の北部に位置する。また、源訪湖を源とし、伊那盆地の中央低地帯を南に流れる天竜川によって、町はほぼ東西に二分された形となっている。

天竜川の両岸は、河岸段丘と数多い扇状地とが独特の地形を作り出している。このうち長岡区は沢川の扇状地浸食段丘である。沢川は奥が深く、広い流域面積をもっているため、天竜川まで運び出してくる砂礫の搬出量は大きい。沢川の一一番広い扇状地である長岡面には、御岳山の最上部テフラが載っている。そのため、長岡扇状地の主形成期は最終氷期の前半にあたる酸素同位体ステージ4にあたる。この時期は伊那谷の盆地内でも竜東・竜西ともに広く扇状地の発達が見られる。同じ上伊那の竜東では、三峰川扇状地の富県地区が同じ時期の扇状地にあたる。扇状地における地質構造はテフラ層と、その下の砂岩・粘板岩を中心とする円錐層・砂層で構成されている。長岡扇状地をつくっている躍層には、さらに古い時代のものがあるかもしれない。天竜川はこの扇状地の扇端部を南流し、流路に沿って河岸段丘を作り上げている。段丘の南突端部は、段丘下との標高差約40mを測り、緩やかに傾斜する地形を呈している。段丘下には扇頂部や扇尖部より地下に浸透した水が伏流水となって天竜川と沖積層の境に出る湧き水が多く、扇状地を流れる小河川の水利とあわせ、豊かな水源に恵まれている。

荒城遺跡は、この扇状地（長岡区）の突端部にあり、上記のとおり恵まれた自然環境の中に存在していると言える。

引用参考文献

伊那市教育委員会・上伊那地方事務所 「小黒南原・伊勢並遺跡 緊急発掘調査報告書」 1992.3

松島信幸 「伊那谷の造地形史 伊那谷の活動層と第四期地質」 1995.3.31

松島信幸 「上ノ平城跡とその周辺の地形地質」 箕輪町教育委員会「上ノ平城跡」 2001.3



上空より遺跡地を望む（調査前）

第2節 歴史環境

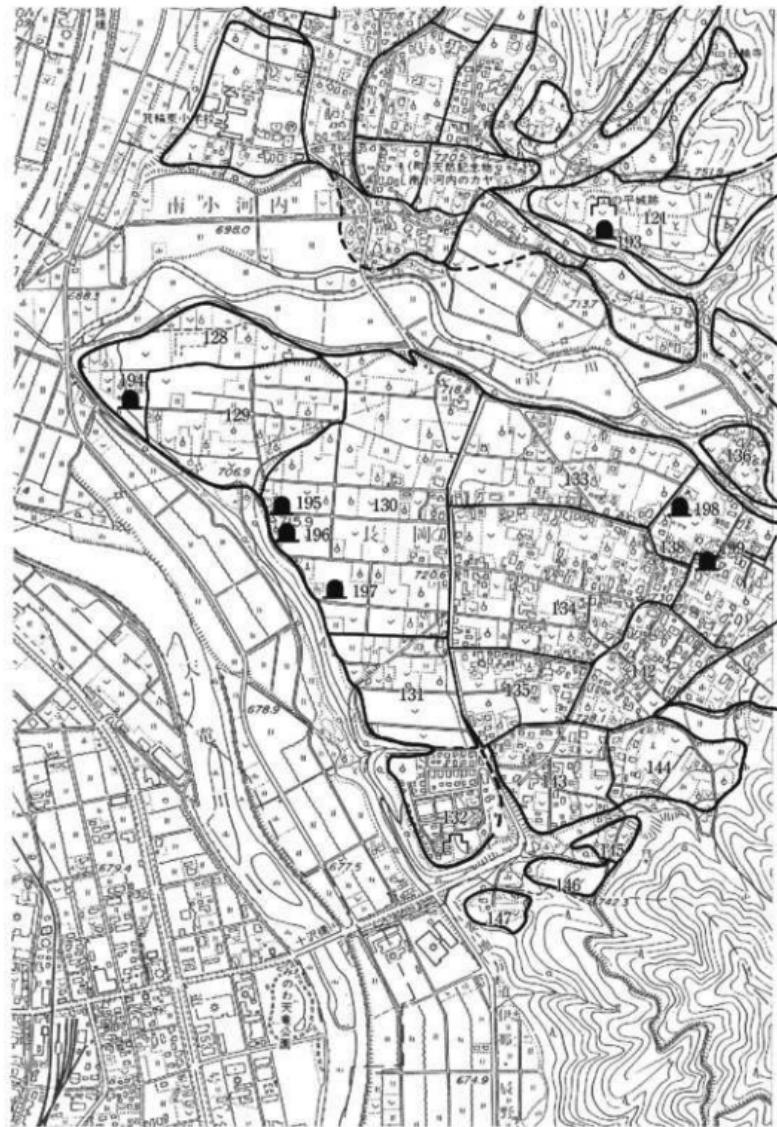
箕輪町は、東西の複合扇状地を流れる中小河川や段丘下の湧水など、水源に恵まれており、先史より人が暮らしある格好の場が多い。町内には先人たちが残した足跡ともいべき多くの遺跡が散在し、現在のところ包蔵地182箇所、古墳27基、城跡13箇所を確認し、上伊那郡下においても扇指の遺跡地帯として知られている。

天竜川左岸である竜東地域（長岡区）の遺跡の分布状況は、段丘の突端（扇端）にみられる遺跡、山裾（扇頂）に広がる遺跡、その中间（扇央）に位置する遺跡とに分けられるが、荒城遺跡は段丘の突端に位置する代表的な遺跡と言える。荒城遺跡の位置する長岡区は、昔から土地が肥沃であるため、そのほとんど全てが人々の生活的舞台であった。また、以前は30基前後の古墳が存在していたが、現在では10基ほどが確認できるのみである。遺跡地にはかつて城跡があったとされ、沢川を隔てた南小河内地籍の舌状台地上には上ノ平城跡がある。

今後、これらの遺跡を保護していくためにも、一帯における開発には十分注意をしていく必要がある。

第1表 周辺遺跡一覧表

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代						立地	地目	備考	
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	近		
132	荒城	長岡	○		○			○		段丘突端	宅地・畠	城跡含む 調一平12
121	上ノ平	南小河内	○	○		○		○	○	○	台地	畠・荒地 県史跡と城跡含む
128	古神	長岡	○	○	○			○	○	段丘突端	畠・田	調一平2
129	春名	タ		○		○		○	○	段丘突端	畠・田	
130	羽場の森	タ		○		○		○	○	段丘突端	畠・田	
131	寺原	タ		○		○		○	○	段丘突端	畠	
133	直路	タ		○				○	○	扇央	宅地・畠	
134	馬瀬口	タ		○		○		○	○	扇央	宅地・畠	
135	鬼戸	タ		○				○	○	扇央	宅地・畠	
136	橋口	タ		○						扇央	宅地・畠	
138	久保畠	タ		○		○		○	○	扇央	宅地・畠	
142	溝添	タ		○			○	○	○	扇央	宅地・畠	
143	荒井	タ		○				○	○	扇央	宅地・畠	
144	角道	タ		○	○			○	○	扇央	宅地・畠	
145	藤塚	タ						○	○	扇頂	畠	
146	高畠	タ		○					○	台地	畠	
147	戸沢	タ		○						台地	畠	
193	上ノ平	南小河内				○				台地	畠	消滅
194	古神	長岡			○					段丘突端	荒地	別称 春名古墳
195	羽場の森1号	タ			○					段丘突端	畠	町史跡
196	羽場の森2号	タ			○					段丘突端	畠	町史跡 調一平10
197	羽場の森3号	タ			○					段丘突端	畠	町史跡
198	久保畠	タ			○					扇央	畠	一部消滅
199	角畠	タ			○					扇央	宅地	一部消滅



第2図 周辺遺跡分布図 (1:10,000)

第Ⅲ章 調査結果

第1節 調査の方法と結果概要

今回の調査地は、平成12年度に町営住宅（長岡）建替事業の第1期工事に先立って実施した、本遺跡の第1次発掘調査地（対象面積約880m²）の西側隣接地あたり、工事対象面積650m²の全面積が対象であった。調査地は、調査実施の前年まで旧町営住宅が建っており、その建設の際の造成により削平されている可能性も考えられたが、前年度の調査では、西側ほど遺構の残りが良かったため、本調査地においては、前年度よりも遺構の残りが良いと判断し、試掘トレンチを設定せず、最初から面的な調査を行うこととした。

調査にあたっては、周辺は住宅地であり、廃土スペースの確保が難しいことから、調査地の東側半分をD区、西側半分をE区とし、第1次調査と同様にD区、E区の順に一調査区ずつ調査を行うこととした。なお、D区の調査終了後の工事は全ての土を一度撤出し、別の土を撤入し入れ替えることが明らかになったため、E区の調査も同時に行うこととした。



第3図 調査区設定図 (1:2,500)

調査の手順としては、重機による表土除去作業、手作業による遺構上面確認作業、各検出遺構の掘り、遺構の土層堆積状況・平面等の測量及び写真撮影による記録作業、遺物の取り上げ、全体測量を行った。なお、基準点Y (718.731m)、Z (717.856m) をベンチマークとし、記録作業における標高を割りだした。

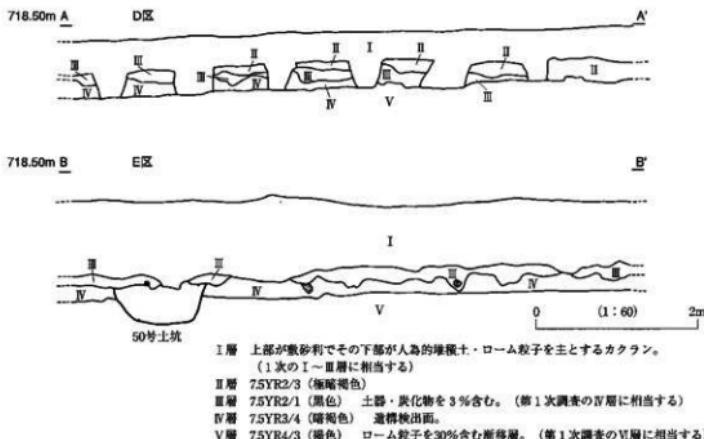
調査の結果、D区を中心とする調査地全域で、住居址・集石・土坑・ピット等の遺構と、縄文時代前期を中心とする大量の遺物を確認し、集落の一端を伺うことが出来た。ただし、E区の西側では予想以上に遺構の破壊が激しく、集落の西端部は明らかにすることが出来なかつた。なお、縄文時代以外の古墳時代及び中世の遺構・遺物は今回の調査でも確認することができなかつた。

今回検出された遺構は以下のとおりである。

・堅穴住居址	- 2棟	・土 坑	- 37基
・集 石	- 8基	・ビ ッ ト	- 58基

第2節 遺跡の層序

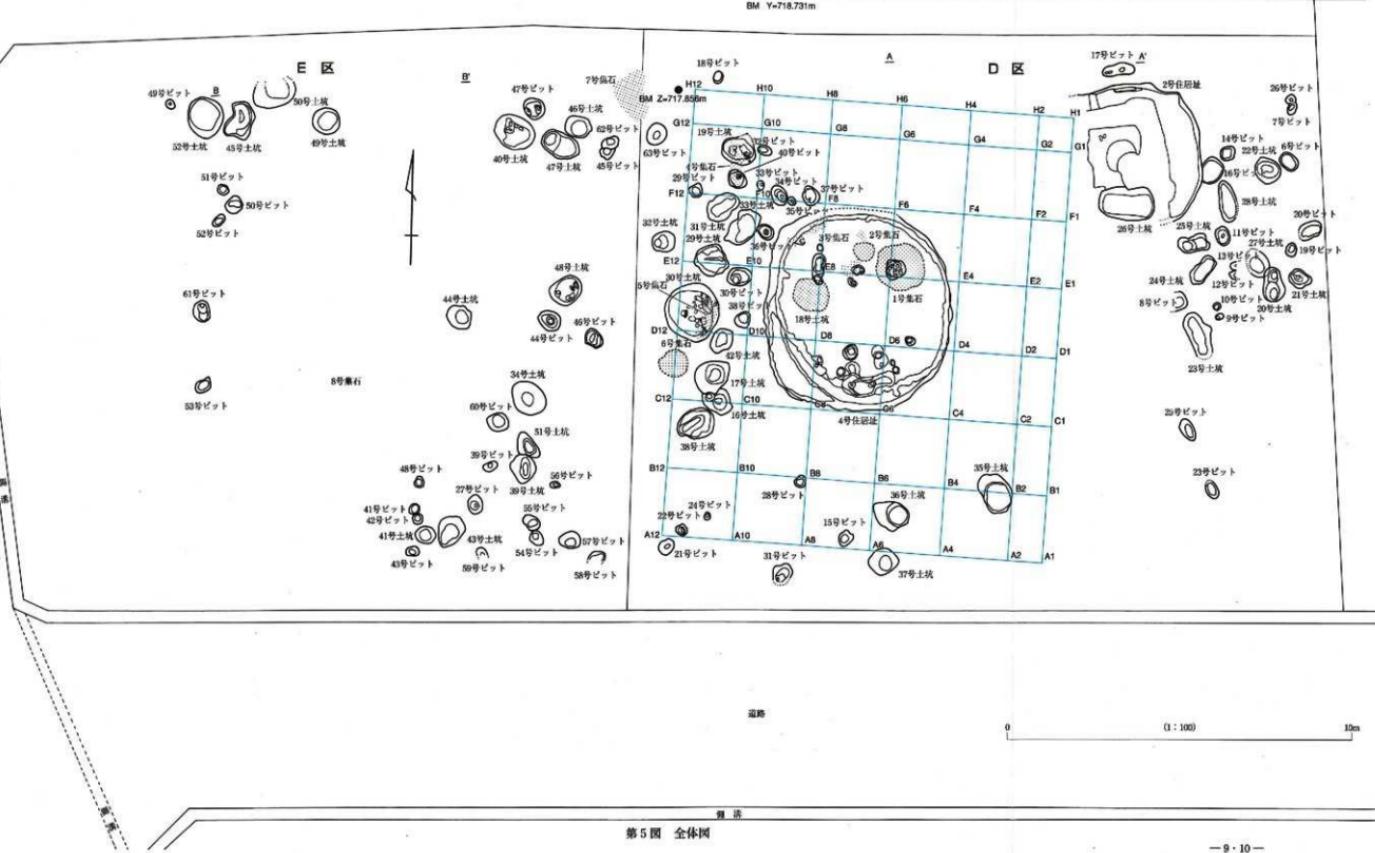
天竜川左岸における扇状地ならびに段丘上における地質構造は、耕作土等の黒褐色を中心とした腐植土層→火山灰土層（テフラ層）→砂岩・粘板岩・花崗岩などの円礫層・砂層という堆積状況が普遍的にみられる。遺構の検出は、耕作土下の自然堆積による黒褐色土を中心とした褐色系土層もしくはテフラの漸移層が一般的である。本調査地においては、IV層の暗褐色土層（1・2・3号集石、18号土坑、4号住居址においては黒褐色土層）が遺構認定最上位面である。しかし旧町営住宅造成の際にIV層が削平されているところもあるため、IV層およびその下のテフラの漸移層であるV層（褐色土）において遺構を確認した。



第4図 調査区土層断面図

可當作密

BM Y=718.731m



第IV章 遺構と遺物

第1節 竪穴住居址

2号住居址

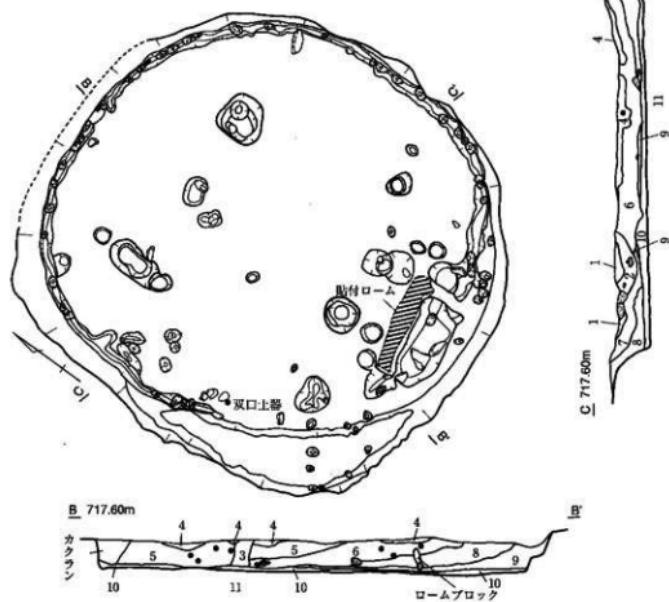
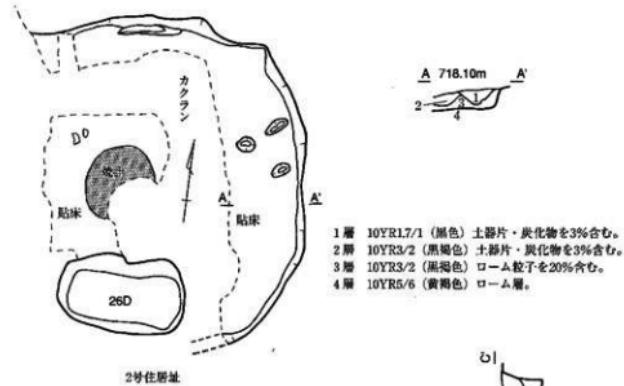
位置：D区北東に位置し、土坑・ピット群と近接する。重複：26号土坑に切られる。検出：テフラ漸移層において確認した。ただしカクランによる破壊が激しく、覆土と床面は東側のごく一部において確認ただけである。また、床面を確認した範囲においても部分的にカクランが混じる。規模・形状：カクランによる破壊が激しいため不明だが、円形もしくは橢円形のプランを呈するものと思われ、南北は直径4m以上を測るものと推測される。覆土：確認できた覆土は3層に分層した。1層は黒色土で土器片及び炭化物を3%含む。2・3層はいずれも黒褐色土で、2層は土器片及び炭化物を3%含み、3層はローム粒子を20%含み繊りが強い。床面・壁：部分的にカクランにより破壊されているものの、残っている箇所においては硬く締まった床面が確認された。東壁は25cmの壁高を測り、垂直に近い角度で立ち上がる。炉：明確な炉址は確認できなかったが、住居址中央付近において面上に焼土を確認した。柱穴：東側において極めて浅いピットを3基確認したが、明確な柱穴は確認できなかつた。その他の施設：北側の一部において周溝の一部を確認した。遺物の出土状況：覆土がほとんど残っていないため不明。中央焼土の北西床面上から土器片1点が出土した。

出土遺物：2は口縁部が朝顔状に外反する深鉢である。外面にはR L繩文が施され、その後口縁下4cmには幅5mmの半割竹管状工具による押引きが施され、これより上は繩文が磨り消されている。3はR L繩文と結節繩文が施された土器底部である。45は幅4mmの縦、横、斜めの平行沈線により文様が構成された土器片であり、平行沈線間に爪形文が施されている。46・48は半割竹管状工具による爪形文の連続で幾何学模様が施され、その外側の繩文が磨り消された土器片である。47は幅5mmの半割竹管状工具による平行沈線により波状文様が施された土器片である。50は北白川下層式の薄手の土器で表裏塗彩されている。51は繩文施文後、口縁部付近に半割竹管状工具による爪形文と、その間に浮線文が施された土器片である。この他に、46・48と同様の土器片4点、46・48と同様の文様ながら平行沈線間に爪形文が施されない土器片1点、肋骨文系土器片4点、幅狭の爪形文土器片2点、幅広の爪形文土器片8点、浮線・文土器片9点、爪形文と浮線文が施された土器片6点、沈線文土器片6点、爪形・浮線・沈線文が施された土器片1点、北白川下層式土器片15点、浅鉢破片2点、繩文土器片多数が出土した。

時期：繩文時代前期後葉（諸穂b式）に比定される。

4号住居址

位置：D区西側（調査地中央付近）に位置し、30号土坑等の土坑・ピット群と近接する。重複：1・2・3号集石及び18号土坑の下に位置する。検出：テフラ漸移層において東側のプランを確認したが、4号住居址上部においては当初から黒色土の範囲が広く、その他のプランを検出することが困難であった。そのため、これを仮3号住居址として、ベルトを設定して20~30cm掘り下げたが床面を確認できず、東壁付近の試掘坑でさらに掘り下げたところ、さらに40~50cm下に床面を確認し、これを4号住居址とした。（なお、当初仮3号住居址とした黒褐色土は、4号住居址廃絶後に堆積した土と思われる）規模・形状：東西5.1m、南北5.5mの橢円形を呈し、南西部に一段高いテラス状の箇所が認められる。主軸はN-54.5°-W、床面積は約23m²である。覆土：11層に分層した。いずれの層も土器片・炭化物・焼土等を含み全体的に繊りが強い。9・10層からは大量の焼土・炭化物及び住居の垂木と思われる炭化した木材が確認され、焼失住居と思われる。11層は床面である。床面・壁：良好な硬く叩き締めた床（一部貼床）が確認された。床面はほぼ水平だが、北側に比べて南側が約10cm、東側に比べて西側が約12cmほど低い。壁高は東側50cm、西側40cm、北側36cm、南側51cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がるが、南西部分のみ床面より17~35cmほど高いテラス状の箇所が認められ、出入口施設と想定した。炉：確認できなか

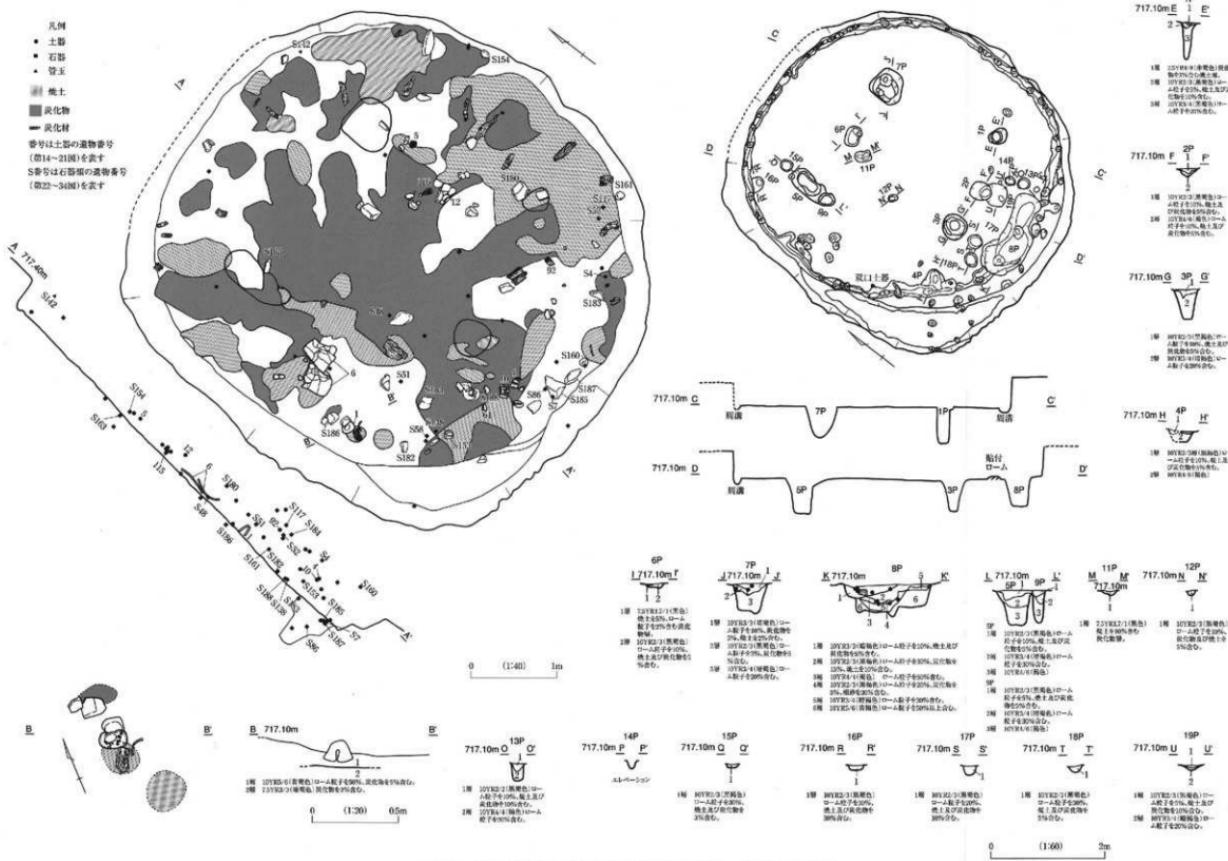


- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1層 10YR3/3 (暗褐色) 土器片を3%含む。 | 7層 10YR5/6 (黄褐色) ローム粒子を50%、炭化物を5%含む。 |
| 2層 7.5YR2/2 (黒褐色) 炭化物を1%、ローム粒子を10%含む。 | 8層 7.5YR3/3 (暗褐色) 炭化物を3%含む。 |
| 3層 10YR2/2 (黒褐色) | 9層 2.5YR3/6 (暗褐色) 炭化物を含む焼土層。 |
| 4層 10YR5/6 (黄褐色) ローム粒子を50%、炭化物・焼土を3%含む。 | 10層 2.5YR3/6 (暗褐色) 炭化物を含む焼土層。 |
| 5層 7.5YR4/3 (褐色) 土器片・炭化物を5%含む。 | 11層 10YR2/2 (黒褐色) 住居址の貼床を含む。 |
| 6層 10YR2/2 (黒褐色) 炭化物・土器片を5%含む。 | |

4号住居址

0 (1:60) 2m

第6図 2・4号住居址実測図



第7図 4号住居址焼土・炭化物の範囲と遺物出土状況 4号住居址実測図

った。柱穴：床面で確認された19基（ただし10号ピットは8号ピットに含む）のピットのうち、位置・規模等から柱穴の可能性が考えられるものは1、3、5、7、9号ピットで、床面からの深さは50~65cmを測る。5・7・9号ピットは建て替えられた可能性が考えられる。7号ピット付近の床面は焼けていた。位置的には2・4号ピット等も柱穴の可能性が考えられるが、床面からの深さはいずれも15~16cmと浅い。その他の施設：南壁近くの8号ピットは150×58cmの楕円形のプランを呈し、深さは56cmを測る。その覆土からは黒曜石の細かいチップが大量に出土した。黒曜石の加工に関する施設である可能性が考えられる。この他に、周溝は南西のテラス部分を除いてほぼ全周に認められる。遺物の出土状況：覆土からは全体的に多くの土器片や石器、黒曜石片が出土したが、床面直上の9・10層からは、前述したように大量の焼土・炭化物・炭化材が出土し、ほぼ同じレベルから肋骨文等の縄文時代前期後葉諸磣a式の土器片が出土した。また、西壁近くの床上8cm付近からは、縄文時代前期後葉諸磣a式のものと思われる双口土器が出土した。双口土器は逆位で出土し、内部には土が一杯に詰まっていたため、ほぼ完全な状態で出土した。

出土遺物：1は西壁近くから出土した双口土器である。口縁は大10.3cm、小8.5cmを測り、それぞれに小突起が認められる。突起部を含む器高は、大13.1cm、小12.3cmを測り、底部径は5.5cmを測る。外面は単筋R L縄文施文の後、口縁部付近には幅2~3mmの半割竹管文が2周施されている。又、内面はヘラミガキが施されている。焼成は良好で、内外面には焼成時のものと思われる炭化物が付着している。4はほぼ直立する器形を呈する小型の深鉢である。何れも残存部の計測で、口径11.4cm、底径8.2cm、器高17.1cmを測る。外面は全面にR L縄文が施され、胴部と頸部に柳歯状工具によると思われる集合沈線文がそれぞれ1周している。胎土には砂粒が多く含み、内面にはタテナデが施されている。5は口縁が朝顔状に外反する深鉢と思われる。外面胴部中央には柳歯状工具により押引文が施され、その上部には同様の工具によると思われる肋骨文と下垂する円形刺突文が、胴部下半にはR L縄文が施されている。胎土には長石が多く含まれ、焼成・調整共に良好な深鉢である。6は頸部がやや膨らみ、口縁部が朝顔状に外反する器形を呈する深鉢である。何れも残存部の計測であるが口径34.8cm、器高46.6cm、底径18.5cmを測る。外面は全面に約4cm間隔で結節縄文が施されている。縄文施文後、口縁部と胴部には幅5mmの半割竹管状工具による押引文が施され、その間に同様の工具による下弦状の押引文が施されている。下弦状の押引文の頂部を通る縦のラインには、直径1.1cmの竹管による円形刺突文が施されている。又、胴部の押引文とその上の下弦状の押引文により区画された範囲は縄文が磨り消され、その後ヘラミガキが施されている。口縁下約2cmの位置には直径6mmの円形の孔が認められる。胎土には砂粒が多く含み、内面にはナデとヘラミガキが施されている。7・8は口縁部が内湾する浅鉢としてとらえた。このうち7は内外面に煤が付着し、胎土には雲母が含まれる。いずれも破片で無文である。9は大型の深鉢と思われ、口縁部は内湾気味に立ち上がる平口縁で、口唇部を三角形の突起状の起伏が波状に1周している。外面にはR L縄文が施され、口縁部には幅5mmの半割竹管状工具による平行沈線文が施されている。10は小型の深鉢で、何れも残存部の計測で、口径16.2cm、底径8.2cm、器高16.7cmを測る。外面は縄文施文の後、幅4mmの半割竹管状工具の押引きにより、直線及び曲線からなる幾何学模様の区画が施され、この区画により縄文が残された箇所と磨り消された箇所とに区分される。胎土には雲母と砂粒が多く含む。11は推定口径58cmの大型深鉢と思われ、北白川下層式に比定される薄型土器である。外面は器面ヨコナデ後羽状縄文を施している。口縁部には補修口が2箇所穿たれ、一部におこげが付着している。12も同様に口縁が朝顔状に外反する大型の深鉢である。外面にはR Lの結節縄文が施され、口縁部には幅3mmの半割竹管状工具による押引文が、やや間隔をあけて2周施され、その間の縄文は磨り消されている。13も大型の深鉢と思われ、外面には結節を多用したL R縄文が施されている。焼成が良好な比較的薄手の土器で、器面調整が丁寧であり内面はヘラミガキが施されている。口縁部は平口縁であるが、棒状工具による刺突により波状の起伏が認められる。この他に大量の土器片や石器が出土した。なお、1号集石より出土した土器片と接合しているので、1号集石の底部が掘りすぎである可能性が考えられる。

時期：縄文時代前期後葉（諸磣a式）に比定される。

第2節 集 石

1号集石

位置：D区中央付近。重複：4号住居址を切る。検出：4号住居址が廃絶した後に堆積したものと思われる黒褐色土層において確認した。規模・形状：148×135cmの円形プランで、深さ35cmを測る擂鉢状の豊穴に、検出面である上部より、加熱を受け赤褐色を帯びた269個の礫により構成される。礫は主に砂岩で構成され、大きさは5~20cm、検出面より深さ20~25cm付近まで一杯に詰められていた。覆土：4層に分層した。1層は黒色土で、焼土及び炭化物を部分的に密に(80%)含む。2層は黒褐色土で焼土及び炭化物を90%含む。また、この層より確認した礫には油脂が多く付着している。3層は褐色土でローム粒子を20%含む。4層は暗褐色土で炭化物を5%、ローム粒子を3%含む。なお、3・4層は掘りすぎによる4号住居址の覆土と思われる。

出土遺物：土器については、236は縄文土器片であるが、部分的(横位)に磨り消されている。237は羽状縄文土器片である。240は口縁が内溝する器形を呈し、外面には沈線文が施されている。243は口縁部が内溝するキャリバー形を呈する土器片と思われる。外面には4本からなる平行沈線による曲線が施され、沈線上には鋭利な棒状工具によると思われる刺突文が施されている。245は平口縁の深鉢と思われ、外面は磨かれている。また、外面口縁部には幅0.5cmの半削竹管状工具による押引文が施されている。この他にも、本址からは沢山の土器片が出土しており、諸礫a式の土器片も何点か見られるが、主体は幅広の爪形文や浮線文・集合沈線文を主体とする諸礫b式であると思われる。また、北白川下層式の土器片も多く出土した。

時期：縄文時代前期後業(諸礫b式)に比定される。また、用途については、焼土・炭化物・油脂等の出土状況から屋外炉の可能性が考えられる。

2号集石

位置：D区中央付近。重複：4号住居址を切る。検出：4号住居址が廃絶した後に堆積したものと思われる黒褐色土層において確認した。規模・形状：南北53cmの円形と思われるプランで、深さ25cmを測る擂鉢状の豊穴に、検出面である上部より、加熱を受け赤褐色を帯びた31個の礫により構成される。礫は直径5~20cmで、検出面より深さ10cm付近までにおいて多く確認された。覆土：2層に分層した。1層は黒褐色土で炭化物を3%含む。2層は暗褐色土。

出土遺物：14・15・16はいずれも底部である。14はR L縄文後集合沈線が横位に施されている。15の外面にはR L縄文が施されている。242は集合平行沈線が施された土器片である。この他に沈線により入組木葉文が施された土器片1点、幅5mmの爪形文土器片1点、北白川下層式土器片2点、縄文土器片多数が出土した。

時期：縄文時代前期後業(諸礫b式)に比定される。

3号集石

位置：D区中央付近。重複：4号住居址を切る。検出：4号住居址が廃絶した後に堆積したものと思われる黒褐色土層において確認した。規模・形状：幅約90cmの範囲においてやや離れて確認された12個の礫により構成される。礫は直径5~20cmほどの砂岩で、赤褐色を帯びた礫が多くみられる。なお、礫の下には掘り込みを伴わない。

出土遺物：1点のみの出土である。241は縄文施文の後、沈線が施された土器片で、厚さが1.8cmと厚い。

時期：縄文時代前期後業に比定される。

4号集石

位置：D区北西。重複：19号土坑及び40号ピットの上。検出：テフラ漸移層。規模・形状：南北80cmの範囲にお

いて、15個の礫により構成される。南側の11個と北側の4個に大きく分けられる。礫は直径5~15cmほどの砂岩・粘板岩で、赤褐色を帯びた礫が多くみられる。礫の下には掘り込みを伴わない。直下に南側は40号ピット、北側は19号土坑が位置している。**覆土**：極暗褐色土の1層のみである。

出土遺物：17号口縁部が直立し、胴部が膨らむ浅鉢の破片と思われる。249は北白川下層式の土器片で、外面には赤色塗彩が施されている。

時期：縄文時代前期後葉に比定される。

5号集石

位置：D区西側。重複：30号土坑の上。検出：テフラ漸移層。規模・形状：南北110cmの範囲において20個の礫によって構成され、南側の礫15個と北側の礫5個に大きく分けられる。礫は直径5~15cmほどの砂岩を主体とする。礫下には掘り込みを伴わず、直下に30号土坑が位置している。

出土遺物：土器片2点が出土した。

時期：縄文時代前期後葉に比定される。

6号集石

位置：D区西側。重複：なし。検出：テフラ漸移層。規模・形状：82×78cmの円形プランで深さ18cmを測る堅穴に、検出面である上部より48個の礫により構成される。礫は直径5~15cmの赤褐色を帯びた砂岩を主体とし、加熱を受けたもの、油脂の付着したものもみられる。覆土：2層に分層した。1層は暗褐色土で炭化物を10%含む。礫の多くはこの層に含まれ、礫の下には炭化物が多い。2層は褐色土でローム粒子を30%含む。

出土遺物：縄文土器片は3点出土した。この他に黒曜石破片が1点出土した。

時期：縄文時代前期後葉に比定される。また用途としては屋外炉の可能性が考えられる。

7号集石

位置：E区北東。重複：なし。検出：テフラ漸移層。規模・形状：110×70cmの範囲において、やや離れた感のある45個の礫により構成される。礫は直径5~15cmの赤褐色を帯びた砂岩を主体とし、礫の中には加熱をうけたもの、油脂の付着したものもみられる。なお礫の下には掘り込みを伴わない。覆土：礫の位置する土は褐色土。

出土遺物：246・247は緩やかに外反する器形を呈し、口縁部には幅0.3~0.5cmの半割竹管状工具による押引文が施されている。251は口縁部が内湾するキャリバー型の器形を呈し、外面には浮線文が施され、浮線上には斜めの刻み目が施されている。また、口縁部には棒状工具による刺突文が施されている。この他に、爪形文土器片1点、縄文土器片多数、黒曜石破片多数が出土した。

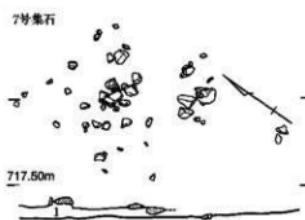
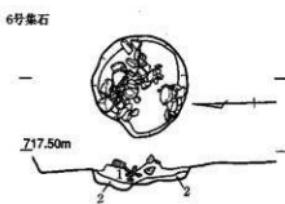
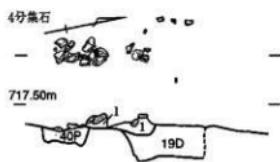
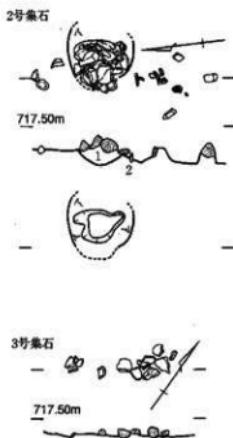
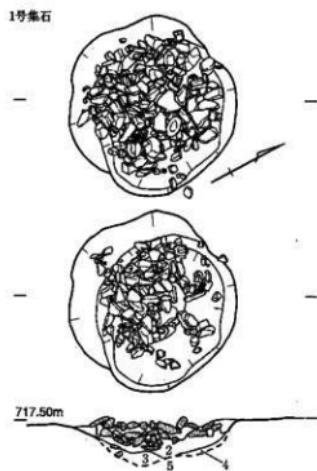
時期：縄文時代前期後葉に比定される。

8号集石

位置：E区中央。重複：なし。検出：テフラ漸移層。規模・形状：南北60cmの範囲において、5個の礫により構成される。礫は単体で、それぞれ10~15cm離れて位置している。礫は赤褐色を帯びた砂岩。礫下に掘り込みは伴わないが、礫間には焼土及び炭化物が認められる。

出土遺物：238は深鉢の底部である。244は緩やかに外反する器形を呈し、外面には幅0.3cmの半割竹管状工具による押引文が施されている。この他に縄文土器片多数、黒曜石破片多数が出土した。なお、この付近の上面確認で第22図1の石壁が出土している。

時期：縄文時代前期後葉（諸穂b式）に比定される。その他：周囲の遺構の平板測量時にセクションポイントを取り忘れたため、8号集石の詳細な位置は不明である。



0 (1 : 40) 1m

第8図 集石実測図

第3節 土 坑

遺構（第9図～11図）

調査区から37基の土坑を検出した。18・26・30号土坑以外の土坑の詳細については別表（第3表）を参照されたい。

18号土坑

位置：D区南側。重複：4号住居址を切る。検出：4号住居址の覆土中に検出された。規模・形状：102×92cmの円形。深さは22cmを測るが底部は明確に確認できなかった。出土遺物：232は獸面把手付き土器である。頬の部分は剥げ落ちているため、動物の特定は出来ない。233は脛部が一度くびれて、その上下で脛部が2度張る浅鉢である。推定口縁は径27cmを測る。口縁から1.8cmまでは無文帶で、その外側には幅0.5cmの浮線文が3周し、浮線文上には斜めの刻み目が施されており、その後径0.4～0.5cmの孔が1.3～1.5cm間隔に開けられている。その外側には間に爪形文が施された平行沈線により入組木葉文が構成されている。胎土焼成とも極めてよい。その他194・200・208の土器と焼土・炭化物・骨片が多く検出された。時期：縄文時代前期後葉（諸磯b式）に比定される。

26号土坑

位置：D区北東。重複：2号住居址を切る。検出：テフラ上面。規模・形状：160×96cmの稍円形プランを呈し深さは70cmを測る。形状から土坑墓と思われる。出土遺物：土器片は190・205・209・212・216（表裏塗彩・北白川下層式）・218・221・222・226～228の土器をはじめ出土量が多い。時期：縄文時代前期後葉（諸磯b式）に比定される。

30号土坑

位置：D区南側。重複：5号集石の下に位置する。検出：テフラ上面。規模・形状：170×157cmの円形で、深さは100cmを測る。出土遺物：20はLR縄文施文の後横位の集合沈線が施された深鉢の底部で、底径は12cmを測る。底部付近から大量の焼土と共に伏せた状態で出土した。諸磯b式後半のものと思われる。19は無文の大型浅鉢、234は無文の浅鉢である。浅鉢ではその他に口縁が無文で脣部に縄文を施したもののが1点出土している。その他に201・203・230の土器片や21・22の土器底部破片が出土した。時期：縄文時代前期後葉（諸磯b式後半）に比定される。また、規模・形状・出土遺物から、土坑墓と思われる。

その他の土坑

19号土坑からは18の土器が一括出土している。34号土坑からはミニチュア土器24とRL縄文が施文された土器底部25が出土している。その他土坑として捉えたものは、遺構規模や形態、出土遺物共に安定しているものが多い。

土坑からの石製品については、紙面の都合上記載していない。第3・5表および第22図～34図を参照されたい。

第4節 ピット

遺構（第12図～13図）

調査区から58基のピットを検出した。各ピットの詳細については別表（第4表）を参照されたい。

第5節 出土遺物

土器（第14~21図）

本遺跡より出土した土器は縄文時代前期後葉を主として15,500片以上にのぼり、縄文時代前期中葉と中期前葉が少量であった。実測したものは32個体である（第16図中39は欠番）。拓本を行ったものは700片以上であったが紙面の都合で割愛した。実測できた土器以外は小破片が多い為、土器の型式分類は深鉢形土器と浅鉢形土器とその他に分類した。施文方法による分類は縄文系土器群、沈線文系土器群、爪形文系土器群、浮線文系土器群、関西・東海系土器群に分類した。関西・東海系土器群についてはそれぞれの土器の中で記述する。

深鉢形土器：浅鉢形に分類したもの以外を全て深鉢形にした。34号土坑にミニチュア土器1点（24）が出土している。

浅鉢形土器：7・8・17・19・27~40・172・184~186・220・233~235・257は浅鉢である。このうち27・28・33・36・37・184・233・235は有孔浅鉢で、19・27・28・34~37・234は無文の浅鉢である。浅鉢と思われる漆塗り丹彩土器が1点（40）出土している。

浅鉢型土器における出土遺構別は次の通りである。2号住居址からは浅鉢の出土は無い。

4号住居址出土の7・8・27・28・35はいずれも口縁部が強く内済し、7・28は口唇部が直立する。27・28は有孔浅鉢で27は口径が12.8cmと小型である。40は器面への施文は行われず、地文に赤漆を施し、黒漆で文様を描いているものと思われる。184~186も有孔口縁の浅鉢と思われるが、何れも口縁から肩部にかけて入組木葉痕を原型とした変形文で円と三角形を組み合わせて施文され、肩部は丸く屈曲している。口縁部は直立せず、口縁部に二条の箇切浮線文が施され、間に小孔が開けられている。縄文時代前期後葉諸磧b式に比定される。そのほかに、浮線文を施した赤色顔料塗彩浅鉢の肩部が1点、無文の有孔口縁が1点、底部が1点、浮線文が施された口縁部が3点、肩部と思われる縁を持った土器片で浮線文と無文の資料が15点、合計27点が出土している。いずれも胎土は精選され、焼成は緻密で赤褐色を呈している。

18号土坑からは233が1点、浮線文が施された口縁部が1点、底部が1点、合計3点が出土している。233は184~186と同じく胎土・焼成・整形・磨きがきわめて良好であり、非常にはっきりと施文されているUFO型の浅鉢である。縄文時代前期後葉諸磧b式前半に比定される。21号土坑からは220が出土している。関西・東海系土器群の北白川下層式土器で赤色顔料が塗彩されている。30号土坑からは出土数が多く、19・234のほかに無文の口縁部が1点、浮線文が施された肩部が1点、無文の肩部が1点、合計5点が出土している。19・34のいずれも無文で大型の浅鉢と思われ、胴部に稜を有している。37号土坑より235が1点出土している。有孔口縁で赤色顔料が塗彩され、施文もはっきりしている。やはり184~186や233と同時期の縄文時代前期後葉諸磧b式に比定される。7・26号ピットからは257が1点出土している。遺構が切り合っているためどちらの遺物かははっきりしない。184~186・233・235と同じく縄文時代前期後葉諸磧b式に比定される。

遺構外では29~34・36~38と、無文の肩部が1点、胴部に稜を持つもの8点、底部6点合計25点が出土している。29は口径29.8cmで肩の屈曲部がやや外側に張り出し、単節縄文を胴部全面に施文後平行沈線により木葉痕を施し、他の部分の縄文を磨り消している。また箇切浮線文を肩部とその下の2ヶ所に施している。焼成・整形・磨きがきわめて良好で、内外ともに黒色化し、施文もはっきりしている。いずれも縄文時代前期後葉諸磧b式に比定される。なお遺構出土の浅鉢は破片であり出土地点も覆土中であることから、出土浅鉢からその遺構の時期比定は避ける。

その他：土製円板6点。いずれも素材は土器片を使用しており円形である。出土地点は、注記のしない資料1点を除いて5点は4号住居址内からの出土である。

次に施文方法による分類について観察する。

縄文系土器群：59・239は土器の全面に格条体压痕文が、66・67は細かいRL原体の斜縄文が、3・13・15・18・

25・60・61・64・65はRL原体の縄文が、62・68・69・236はLR原体の縄文が、11・63・237は羽状縄文が施されている。70~72・190・191・258・259は関西・東海系土器群の北白川下層式土器で羽状縄文が施されている。沈線文系土器群：4・9は諸磯a期のクシ歯状沈線と平行沈線が施されている。14・20・26・29~33は諸磯b期の沈線文系の土器である。26は獸面把手付き土器で口縁波頂部に獸面突起を貼付し、縄文後沈線文で4単位の文様が突起直下を中心に施文されている。73・74・262~263は獨創状工具による波状文が、75・264は山形文が、76・200は流文文が、242は多重木葉文が施文されている。79~85は口唇部とその直下に凸体を持ち、その上に半剖竹管状工具による押引きで加飾した有段口縁の土器である。91・92・94は米字文が、93は捺円米字文が、96は縱区画の菱形文が、47・99~101はコンパス文が施文されている。102・103・196は纖維が含まれており、縄文前期中葉の土器と思われる。106~109・111・112・192は葉脈文が、5・104~105・113~131・193・194は木葉文を主体とした肋骨文が施されている。43・133~136・252・271は、縄文後平行沈線により区画をし、区画外の縄文の磨り消しを行っている。このうち252は北白川下層式の土器で彩色されている。99~103と107~109・111・112・196を除いて縄文前期後葉諸磯a式に比定される土器と考える。また、133と134、135と136は同一個体と思われる。

爪形文系土器群：137~139は刺突文が横位に施されている。1・2・6・12・140~152・204・205・207~212・244~247・270は半剖竹管状工具による爪形文が施され、横位の無文体を持つ土器である。無文体は1帯~4帯あり、無文体の幅も狭いものから広いものまである。154~156・158・159は地文に縄文を持ち、横位に爪形文を巡らす。157・160は縄文後、爪形文を横位と斜位に施している。10・44・48~50・166~168・172・214~217・275は縄文後、押引きや爪形文により区画をし、区画外の縄文の磨り消しを行っている。縄文時代前期後葉諸磯a式後半~b式前半に比定される。169~171・248は、シユロ状の爪形文を巡らす関西・東海系土器群の北白川下層式土器である。49・50・214~216も爪形文を持つ北白川下層式の土器で49・50・215・216は彩色土器(50・216は表裏塗彩)である。172は浅鉢で内面の調整が非常に丁寧である。

浮線文系土器群：173~179・218~229・255・256・260は浮線の両端に爪形文を施している縄文前期後葉諸磯b式土器である。218~221は関西・東海系土器群の北白川下層式土器(220は彩色土器)である。173・175~179・181~186・222~224・229~233・235・256・257・261・272・274・276~279は鈍切浮線文を施している。232は獸面把手付き土器である。

その他：無文と思われるが小破片であるため断定できない浅鉢などがある。

石器（第22~34図）

石器について一括する。調査より得た資料は合計約3,300点であった。この内3,024点が石器製作に伴うものとして彈き出された資料で289点が道具として認定できた石器である。石器の内訳は193点が狩猟を掌る石鏃で、91点が調理加工用の刃器・石錐・磨石類及び台石・石皿である。その他打製石斧3点、石製装飾品は管玉1点、块状耳飾2点、円形装飾品1点、合計4点が出土している。石核は2点を実測した。

遺構別出土数は以下の通りである。

2号住居址：凹基無茎石錐2点、両面に擦痕が認められる打製石斧(石質一綠泥片岩)1点、失敗品3点、石屑が130点、合計136点出土している。

4号住居址：石錐89点、失敗品7点、石核27点、原石29点、石屑1,916点合計2,098点出土している。実測できた個体は平基無茎石錐14点、円基無茎石錐1点、凹基無茎石錐29点、尖基無茎石錐1点、形状不明の石錐9点、石匙6点、スクレイパー3点、石錐4点、管玉1点、块状耳飾1点、剥片4点、刃器1点、打製石斧1点、磨石7点、凹石3点、敲石2点、用途不明品1点、台石3点、石皿5点、合計96点で他の遺構に比べ非常に多い。特筆すべきこととして8号ピットは製作途中の失敗品(9点)を含め、ピンセットで拾い集める程小さなチップが層になって出土したことである。

集石：石錐4点、失敗品1点、磨石1点、凹石1点、石皿1点、石核1点、原石1点、石屑40点、不明1点合計51点が出土している。

土坑：石鎚12点、失敗品7点、石匙1点、スクレイバー1点、凹石1点、石皿3点、石核3点、装飾品1点、原石が11点、石屑130点合計170点が出土している。

ピット：石鎚3点、石匙1点、块状耳飾1点、石核1点、石屑7点合計13点である。

遺構外出土品：石鎚43点、失敗品13点、石匙3点、スクレイバー2点、石錐4点、石核13点、打製石斧1点、刃器2点、磨石7点、石皿3点、凹石1点、石核13点、原石18点、石屑718点、用途不明1点、合計842点である。

次に実測した個々の石器について観察する。大型の石器に関しては種別を特定できない小破片以外のほとんどを図として掲載してある。

石核（第27・29図）：本遺跡からは数多く出土しているが紙面の都合上2点（122・145）のみ掲載した。122は上面確認からの出土である。自然面を2面残す。何度も剥離を加えられ、ほぼ球形をしている。残っている剥離面に大きいものが観察できることから、石鎚製作に使用されたことが推測される。また、明瞭な打痕を確認できる面が多いことから、石器製作を研究する上で良好な資料である。145も上面確認からの出土である。裏面と側面の片側に自然面を残す。表面に一打目の打痕を確認できることから原石からそれほど剥離されたものでないと思われる。挟雜物が比較的多く確認できる。

石鎚（第22～26図）：193点のうち実測したものは黒曜石100点、チャート8点、安山岩2点、硬砂岩1点の合計111点である。形状別では凸基有茎石鎚1点、平基無茎石鎚39点、円基無茎石鎚3点、尖基無茎石鎚3点、凹基無茎石鎚56点、形状不明が9点ある。使用痕跡として、先端部の欠損している資料と、技術的に製作途中の失敗品と考えられる資料がある。なお、すべての石鎚について実測されなかったことは残念である。

剥片・碎片（第26図）：4点（112～115）を実測する。本遺跡から出土した剥片・碎片は約3,000点であるが、ほとんどが黒曜石でその他の石材はチャート26点を含む29点のみであった。報告書作成当初は剥片・碎片に対する理解が浅く、分析していないため分類・比較をせずに一括してある。掲載した図についても向きが適切でないものもあると思われるが、こうしたことを今回の反省点とし、荒城遺跡の石器製作技術の詳細については今後の課題としたい。本書では大量の黒曜石の碎片（チップ）が出土したことを考慮し、4号住居址8号ピットのものを4点のみ掲載した。

スクレイバー（第27図）：小形刃器の中で特に、剥離加工を施してあるもので、素材をそのまま活かしている資料をスクレイバーとした。119は刃部を背面側から調整、120は刃部を両面調整している。石質はチャート1点（119）があり、他は黒曜石である。

石匙（第27・28図）：小形刃器の中で剥片に加工を施し全体形を変形し、背面の一部に茎部を作出した資料を石匙とし、10点を実測した。刃部の形態は横型7点、縱型3点で、石質は黒曜石4点（130・132～134）、チャート4点（124・125・127・129）、砂岩1点（126）、安山岩1点（128）である。ルーベ観察により124・125・128・129に使用痕と考えられる微細な剥離痕が認められ、126・130・132は認められない。134は失敗品か。127は剥離痕は認められず、両面調整が施され、刃部欠損であるが石錐ではないかと思われる。

石錐（第28図）：穿孔作業を想定できる資料7点を実測した。石質はチャート2点（131・139）、黒曜石3点（135・137・140）、安山岩2点（136・138）、である。刃部の作出は、131・136・138・140は2側面に表裏両面から調整加工を施し、機能部断面菱形状を呈す。131は先端部欠損、140は基部欠損している。135は2側面に調整加工を施し、機能部断面三角形を呈す。137・139は先端機能部と基部の区別が不明瞭で、刃部は2側面を表裏両面から調整加工を施し、機能部断面は菱形状を呈す。

石製装飾品（第28図）：块状耳飾が2点（141・143）出土している。141は平面形状円形で、中央孔は中心に開けられている。断面形は片面がかまぼこ状に盛り上がり、片面はやや丸みを帯び、厚みがあり重量感もある。中央孔は片面から穿孔され、片面の孔の径が大きめである。また、条痕は孔壁に直角にまわっており、一方向に穿孔され研磨したものとみられる。切れ目も片面から穿孔されている。石質は滑石製で半分が欠損している。143は平面形状円形で、中央孔は中心に開けられている。断面形は片面平坦で、片面は盛り上がりをみせる。中央孔は片面から穿孔され条痕が孔壁に平行にまわっていることから、回転によって穿孔され研磨されたものとみられ

る。切れ目も両面から穿孔され研磨されている。石質は硬砂岩でやはり半分が欠損している。出土地点は141号ピットから、143は仮3号住居址からの出土で遺構内からの出土とは断定しにくい。

管玉は1点（142）出土している。側面がくびれる形態で、両側から穿孔され、条痕が孔壁に平行に見られることから、回転によって穿孔したものと思われる。濃緑色の滑石製で欠損してはいるもののヒスイに似た美しさがある。

円形装飾品は1点（144）出土している。孔は穿たれていないものの研磨されており、未製品と思われ、石質は滑石製である。

打製石斧（第29図）：数が少なく3点（146～148）のみの出土である。146は2号住居址出土の打製石斧で石材は緑泥片岩である。短冊形に近い形態をしている。両面に擦面が認められるがこれは製作途中に破損したものを擦って調整してあるものと思われる。磨製石斧の可能性も捨てきれないが、実測時に刃部とした部分に使用痕と思われるが剥離痕があることやその形状から打製石斧とした。147は4号住居址出土の唯一の打製石斧である。石材は凝灰岩。短冊形と思われるが、石質によるものか調整が深く入りすぎているところがあり、形態がやや不定形である。刃部にわずかな使用痕が認められる。148は遺構外からの出土である。石材は砂岩である。上部がわずかに欠損しているが、撥形の打製石斧である。裏面には自然面を多く残す。摩滅により識別が困難であるが刃部にいくつかの使用痕が認められる。

刀器（第26・29図）：4点（116・149～151）出土した。刃部を持つ石器の中で種別を分類できないものをまとめて刀器とした。石鎚などと同様の石材を使用してあるものを小形刀器、打製石斧などと同様のものを大形刀器としたが出土数が少ないので一括して記述する。小形刀器は1点（116）の出土であるが、さらに精査をすれば剥片として処理したものの中には小形刀器が含まれている可能性もある。大形刀器は3点（149～151）出土した。

116は4号住居址8号ピットからの出土。石材はチャートである。剥片の両縁に片面ずつ刃を作り出してある。149は4号住居址からの出土である。石材は砂岩。表面には擦面が認められ、裏面はおもに大きな剥離面であることから、磨石あるいは石皿などの石器が破損したため調整を加え刃器として転用したものと思われる。150は遺構外（上面確認）からの出土で石材は粘板岩である。両面及び両縁に刃部を作り出してあるが、その不定形さから頗りなどが不明である。151は遺構外（表探）からの出土。石材は断定できないが輝緑凝灰岩と思われる。裏面は自然面を活かし、刃部は丸刃になるように調整を加えてある。さらに特徴的なのは明確な背部を作り出していることである。調整を何度も加え平らな面を作り出してあることから、使用もしくは装着状況を考慮してとのことと考えられる。使用痕については、刃部に観察できる変色した小さい剥離痕が該当すると考えられる。

磨石・凹石・敲石（第30～33図）：磨石：17点、凹石6点、敲石2点を実測した。

観察により形態的に確認できたものに関しては、なるべく遺構ごとに磨石・凹石・敲石の順番で図を掲載している。多少の前後はあるが表で確認してほしい。しかしこの3種の石器に関しては二つあるいは三つの機能を持ち合わせているものが確認できる。本書に掲載した25点のうち、二つ以上の機能を持ち合わせているものは10点である。また機能が磨石のみと特定できる152・154・171・172については煤と思われる以外の黒色や赤色の付着物が認められることから、漆や赤色顔料などを磨り潰して混ぜ合わせるという用途に限られていたことも十分に考えられる。そのため、同じ磨石類といっても分けて考えなければいけないかもしれない。158に関しては煤以外と思われる付着物が認められ、4号住居址の出土となっているが出土日の記録が無いために本当に4号住居址の出土か疑問が残るので判断材料とはしない。

石材に関しては砂岩が16点で、安山岩が7点、凝灰岩が1点、不明が1点となっている。安山岩に関してはこの地域では産出しないため、黒曜石とともに母岩産出地である八ヶ岳地域から持ち込んだものと思われるが、素材を持ち込んだのか製品を持ち込んだのかは判然としない。

台石・石皿（第33・34図）：台石とした4点のうち、3点は台石か石皿か断定できないが、台石の中に入れた。石皿は12点出土している。種別が台石もしくは石皿と特定でき、本書に掲載した16点のうち、4号住居址の出土のものが9点と多い。全体的に欠損しているものが多く、台石か石皿か分類が困難なものもあるため、ここでは

一括して扱う。欠損が多い理由としては、使用後の被熱によって石器自体が脆くなつたことも起因していると考えられる。

石皿・台石のなかで特筆すべきものとして4号住居址8号ピット出土のものがあげられる(185・187)。この二つはピットの縁近くから並んで出土しており、ピットから出土した大量の黒曜石の碎片(チップ)などから考えると石器製作に使われた可能性もある。とくに187に関しては表面・裏面ともに平坦な石であり、自然石そのまま利用したと考えられるが、側面に擦面が認められることからその特異性に注目したい。また185については裏面にも摩滅面が認められる。

その他に台石・石皿については磨石・凹石・敲石といった石器との組み合わせや使用状況についても考察が必要である。他の遺跡の類例も参考にしながら今後の課題としたい。

石材に関しては、種別が石皿・台石と特定できた16点のうち砂岩が13点、安山岩が191・195の2点、不明が187の1点である。磨石・凹石・敲石と同様に、安山岩の母岩産出地は八ヶ岳周辺と考えられるが、素材を持ち込んだものではなく、磨石類といっしょに製品自体を持ち込んだという可能性もある。

その他(第33図)：3点(176・177・179)が種別特定の要素にかけた。

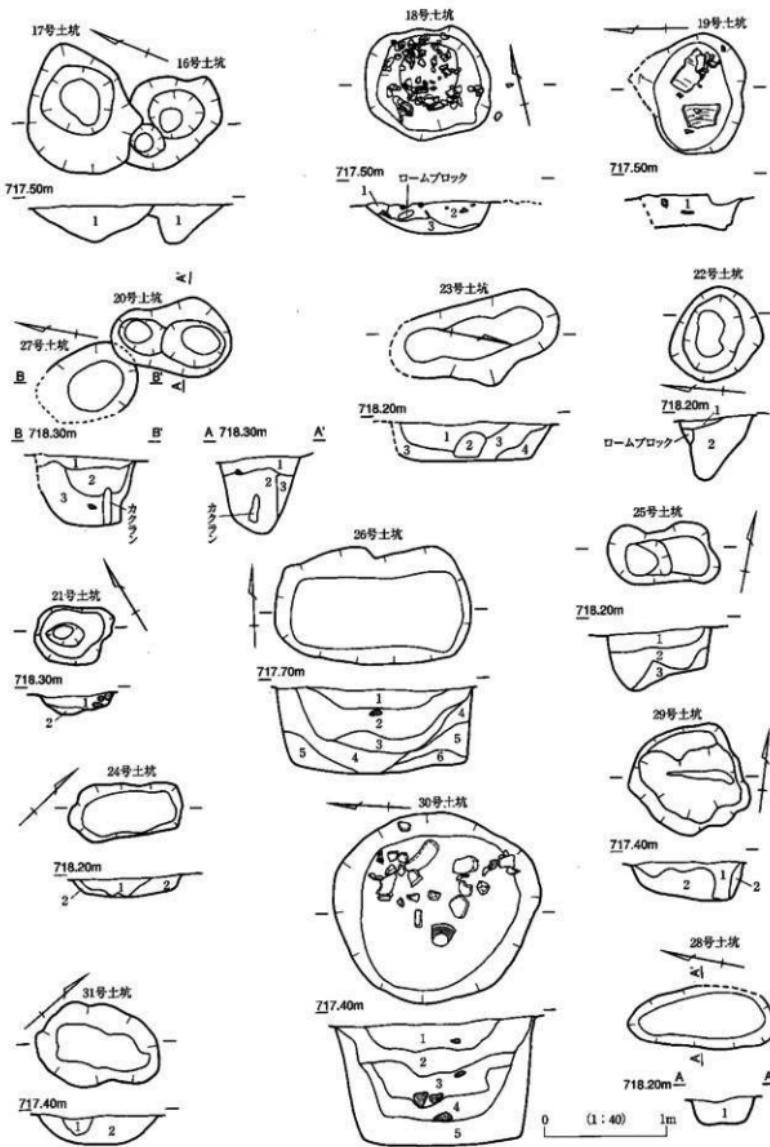
砥石と思われるが特定できない砂岩製の石器が1点(179)、種別不明のものが2点(176・177)出土している。176は粘板岩製でわずかに調整痕が認められるものの風化が激しく種別特定の要素にかけた。177は砂岩製で上下ともに欠損があり、また被熱しているため、細部の観察ができずに種別が特定できなかった。中央部が湾曲しているため砥石の可能性もあるが詳細は不明である。

遺構番号の変更について

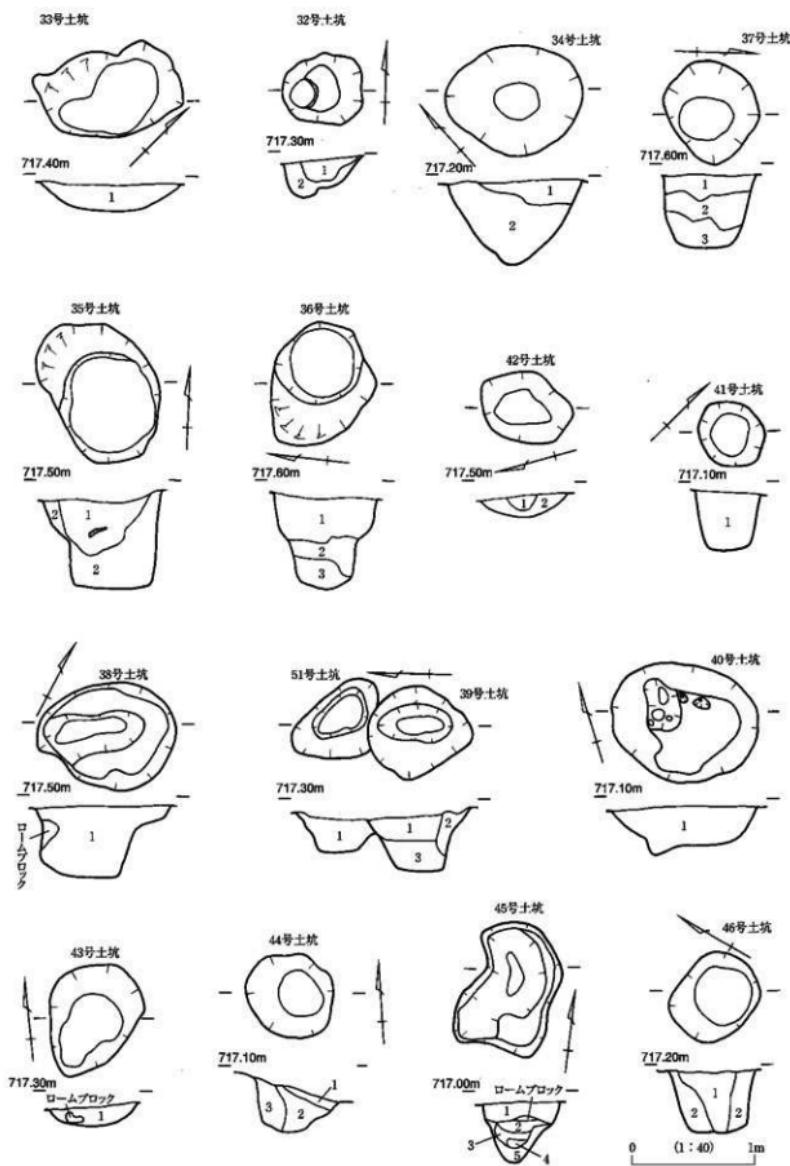
今回の調査では、遺構番号を新しく1から付けたが、一次調査と関連をもたせるために遺構番号の変更を行つた。また、調査をしていく中で最初は遺構としたものの精査をして遺構とは扱わなくなった関係などで遺構の番号を変更をしたものがある。以下はそれらをまとめて表にしたものである。第1次調査で検出した1号集石については今後9号集石としたい。なお、遺物の注記については最初に付けた遺構番号で書いてあるので了承された。

第2表 遺構番号変更表

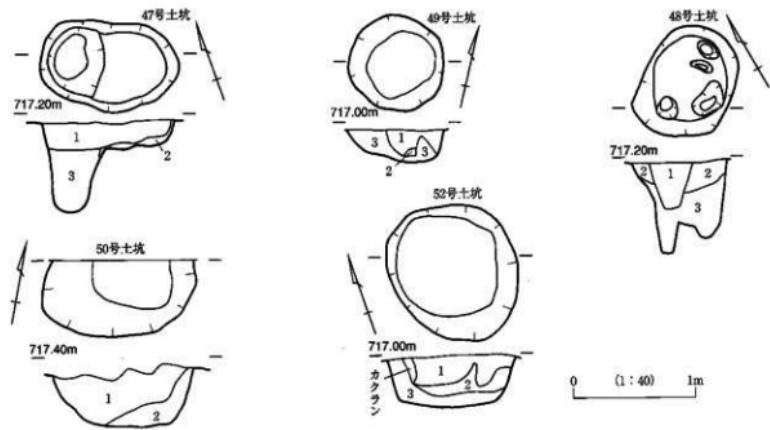
土坑の変更表				ピットの変更表			
旧番号	報告書の番号	旧番号	報告書の番号	旧番号	報告書の番号	旧番号	報告書の番号
1号土坑	20号土坑	13号土坑	38号土坑	2号ピット	19号ピット	54号ピット	欠番
2号土坑	21号土坑	14号土坑	42号土坑	3号ピット	20号ピット	57号ピット	欠番
3号土坑	22号土坑	35号土坑	27号ピット	4号ピット	23号ピット	58号ピット	欠番
4号土坑	23号土坑	38号土坑	39号ピット	5号ピット	26号ピット	60号ピット	欠番
5号土坑	24号土坑	42号土坑	欠番	19号ピット	欠番	61号ピット	45号土坑
6号土坑	25号土坑	45号土坑	欠番	20号ピット	欠番	62号ピット	欠番
7号土坑	26号土坑	48号土坑	45号ピット	23号ピット	欠番	63号ピット	欠番
8号土坑	27号土坑	54号土坑	61号ピット	26号ピット	欠番	64号ピット	63号ピット
9号土坑	28号土坑	55号土坑	57号ピット	27号ピット	欠番	なし	54号ピット
10号土坑	35号土坑	56号土坑	58号ピット	45号ピット	48号土坑	なし	62号ピット
11号土坑	36号土坑	57号土坑	60号ピット				
12号土坑	37号土坑	なし	51号土坑				



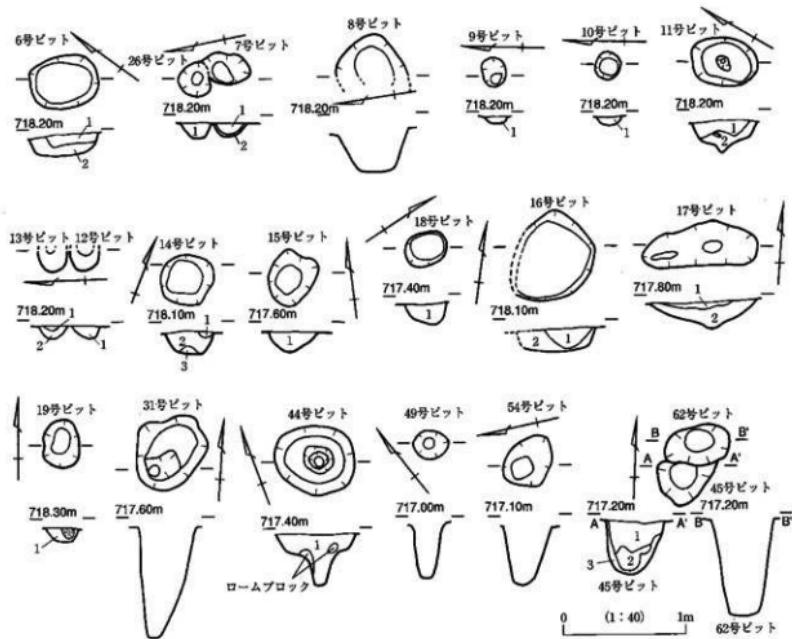
第9図 土坑実測図1



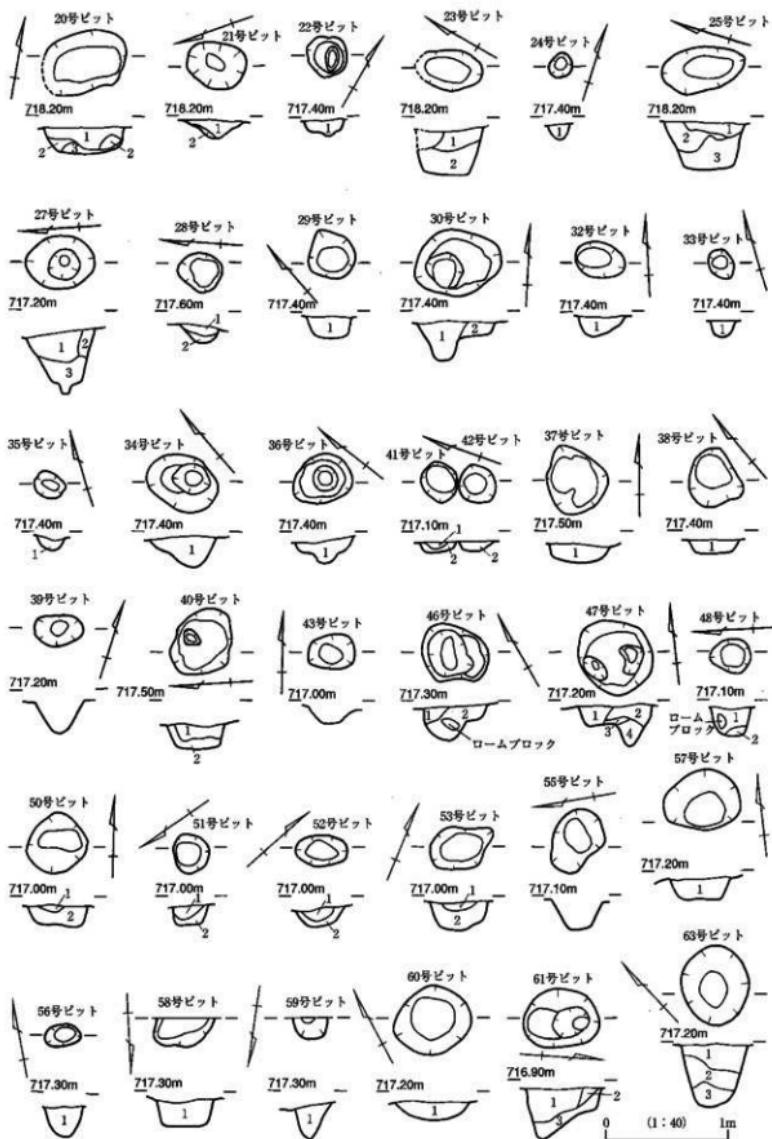
第10図 土坑実測図 2



第11図 土坑実測図 3



第12図 ピット実測図 1



第13図 ピット実測図 2

第3表 土坑一覧表

No.	規模(cm)	平面形	覆 土	粘性(締まり)	出土遺物	備 考
16	99 74 32	不整形	1 7.5YR3/4(暗褐色) 中位に集中して炭化物5%、ローム粒子30%	中	土器片 食卓	17号土坑に切られる
17	113 86 24	不整形	1 7.5YR3/4(暗褐色) 中位に集中して炭化物5%、ローム粒子30%	中	土器片 食卓	16号土坑を切る
18	102 92 22	椭円形	1 7.5YR4/3(褐色) 焙土及び炭化物を1%、ローム粒子10% 2 7.5YR2/2(暗褐色) 焙土3%、炭化物30% 3 7.5YR4/4(褐色)	中 中 中	土器 第30回 194-200, 208-233,235 石器 第22回 12 第24回 125 この他の土器片多數	本社上部に位置し、本 社上部に位置し、径2~10cmの 石器片を確認
19	100 96 35	椭円形	1 10YR3/3(暗褐色) 焙土及び炭化物1%	中	土器 第30回 231 石器 第25回 79	4号集石下に位置する この他の土器片多數
20	98 65 64	椭円形	1 10YR2/3(暗褐色) 土器片及び炭化物3% 2 10YR3/3(暗褐色) 土器片及び炭化物3%、ローム粒子の混合 3 10YR3/3(暗褐色) ローム粒子30%	強 中 強	土器 第30回 195-211, 219-233,224-225 石器 第22回 12 第24回 125 この他の土器片多數	27号土坑を切る
21	63 48 15	不整形	1 10YR2/3(暗褐色) 土器片及び炭化物3%、径2~10cmの混合 2 黒褐色 ローム粒子50%以上	強	土器 第30回 228 この他の土器片多數	
22	77 66 49	椭円形	1 10YR2/3(暗褐色) 土器片及び炭化物3% 2 10YR3/3(暗褐色) 土器片及び炭化物3%	強 中	土器 第30回 267 石器 第24回 61(数点)	
23	142 71 29	不整形な 椭円形	1 10YR2/3(暗褐色) 土器片及び炭化物3% 2 10YR3/3(暗褐色) ローム粒子30% 3 10YR4/4(暗褐色) ローム粒子をブロック状に30% 4 10YR5/6(暗褐色) ローム粒子50%以上	中 強 強 中	土器 第30回 228 この他の土器片多數	
24	93 45 15	不整形な 椭円形	1 10YR3/3(暗褐色) ローム粒子30% 2 10YR5/6(暗褐色) ローム粒子50%以上	強 強	なし	
25	85 49 47	不整形	1 10YR2/3(暗褐色) 土器片及び炭化物3% 2 10YR3/3(暗褐色) ローム粒子30% 3 10YR5/6(暗褐色) ローム粒子50%以上	強 強 中	土器 第30回 210 石器 食卓	
26	160 96 70	椭円形	1 7.5YR2/3(暗褐色) 土器片及び炭化物3% 2 7.5YR2/1(黒褐色) 土器片及び炭化物3% 3 10YR3/3(暗褐色) 土器片及び炭化物3%、ローム粒子10% 4 10YR4/4(暗褐色) ローム粒子50% 5 10YR6/6(灰褐色) 6 暗褐色 ローム粒子50%	強 中 中 中 中 中	土器 第30回 190-205, 209-212,216,218-221, 222-236,227-228 石器 第30回 167 この他の土器片多數	2号住居を切る
27	85 60 55	椭円形	1 10YR2/3(暗褐色) 土器片及び炭化物3% 2 10YR3/3(暗褐色) 土器片及び炭化物3% 3 10YR3/3(暗褐色) 地土及び炭化物を含む	強 中 中	土器片 食卓 石器 第34回 190 この他の土器片多數	20号土坑に切られる 西側はカランにより被覆
28	120 52 21	椭円形	1 10YR3/3(暗褐色) 土器片及び炭化物を3%、ローム粒子の混合	中	土器片食卓(北洋文-萬 文)数点 石器 数点	
29	101 94 31	不整形	1 10YR2/2(暗褐色) 2 10YR4/3(にい・黄褐色)	中 中	土器片(北洋文-萬 文)数点 石器 第22回 75	
30	170 157 98	円形	1 7.5YR3/3(暗褐色) 炭化物3%、ローム粒子10% 2 7.5YR4/4(褐色) ローム粒子を帶状に40% 自然堆積土? 3 10YR3/1(暗褐色) 炭化物3% 上面より径約30cmの石20点 4 10YR4/3(にい・黄褐色) 焙土及び炭化物10%、ローム粒子30% 5 明黄褐色 本層底部周辺に大量的燒土	強	土器 第30回 201-203, 230-234 石器 第34回 191 この他の土器片多數	5号集石の下に位置 浅井の土量が多く、基の 可能性が考えられる
31	103 70 25	不整形	1 10YR3/2(暗褐色) 2 10YR4/3(にい・黄褐色) ローム粒子50%	中 中	土器 第30回 198 石器 第34回 190 この他の土器片多數(北 洋文-萬文等)数 点 石器 第28回 144	
32	66 57 27	円形	-	-	土器片 食卓	
33	114 70 20	不整形	1 10YR2/2(暗褐色)	中	土器片 食卓 石器 数点	
34	112 91 68	椭円形	1 7.5YR3/1(暗褐色) 2 7.5YR2/2(暗褐色) 土器片及び炭化物5%、径0.5cmの小縫5%	強 中	石器 第22回 15 第24回 74-80 第34回 191 この他の土器片多數	
35	125 84 70	椭円形	1 10YR3/3(暗褐色) 炭化物1%、ローム粒子10% 2 7.5YR4/3(褐色) ローム粒子30%	強 強	土器 第30回 185-202, 204-206,211 石器 第28回 134 この他の土器片多數	この他の土器片多數(北 洋文-萬文等)数 点 石器 第28回 134 この他の土器片多數
36	108 82 77	不整形	1 7.5YR4/6(褐色) ローム粒子50% 2 7.5YR4/3(褐色) ローム粒子30% 3 10YR3/2(暗褐色) 土器片及び炭化物1%、ローム粒子10%	強 強 中	土器 第30回 192 石器 数点	

37	85	75	59	不整形	1. 7.5YR4/3(褐色) ローム粒子10% 2. 10YR3/2(黒褐色) 土器片及び炭化物1%、ローム粒子10% 3. 7.5YR4/3(褐色) ローム粒子30%	中 中 中 強 弱	土器 第208号 197.236 この他の土器片十数点 石器 数点	
38	115	89	58	小整形	1. 7.5YR3/4(暗褐色) 中位に集中して炭化物5%、ローム粒子30%	中 中 強 弱	土器片(爪形文・縞文等)十数点 石器 数点	
39	86	77	47	不整形	1. 7.5YR2/2(黒褐色) ローム粒子3% 2. 7.5YR3/6(明褐色) ローム粒子30% 3. 7.5YR2/2(黒褐色) ロームブロック30%	中 中 中 強 弱	土器 第208号 199.213 S1号土坑を切る。当初S1 この他の土器片多数 上枕と同一の塗装と 考えたため、どちらの遺 物かは不明	
40	121	96	40	梢円形	1. 7.5YR3/3(暗褐色) ローム粒子20%	中 中 中 強 弱	土器片數点 石器 数点	
41	59	50	48	円形	1. 7.5YR2/2(黒褐色) 炭化物10%、ローム粒子10%、下方に土器片3%	中 中 中 強 弱	土器片數点	
42	72	60	18	不整形	1. 10YR3/2(黒褐色) 2. 10YR4/2(灰黄褐色) ローム粒子10%	中 中 強 強	土器片 数点	
43	98	79	16	梢円形	1. 7.5YR4/3(褐色) ローム粒子30%、ロームブロック含む	中 中 中 強 弱	土器片 数点	
44	72	69	48	円形	1. 7.5YR3/2(黒褐色) 土器片及び炭化物3%、ローム粒子3% 2. 7.5YR3/2(黒褐色) 土器片及び炭化物3%、ローム粒子5% 3. 7.5YR4/4(褐色) 炭化物3%、ローム粒子30%	中 中 中 強 弱	土器片、黒曜石数点	
45	110	75	49	不整形	1. 7.5YR2/2(黒褐色) 2. 7.5YR3/1(黒褐色) 土器片1枚 3. 7.5YR4/3(褐色) ローム粒子30% 4. 7.5YR5/6(黒褐色) 5. 7.5YR5/6(明褐色) ローム粒子50%以上	中 中 中 中 中 強 強 強 強 強 弱 弱	土器片數点	
46	74	60	50	梢円形	1. 7.5YR3/1(黒褐色) 炭化物3%、ローム粒子10% 2. 7.5YR5/6(明褐色) ローム粒子50%以上	中 中 中 強 弱	土器 爪形文・縞文等、 十数点 石器 数点	
47	115	73	72	梢円形	1. 7.5YR3/1(黒褐色) ローム粒子5% 2. 7.5YR2/3(暗褐色) 炭化物3%、ローム粒子30% 3. 7.5YR5/8(明褐色) ローム粒子50%以上	中 中 中 強 強 強 弱	土器 第208号 199.217 この他の土器片多数 石器 第228号 15個數点	
48	96	73	74	梢円形	1. 7.5YR2/2(黒褐色) 炭化物2% 2. 7.5YR4/3(褐色) ローム粒子10% 3. 7.5YR5/6(明褐色) 炭化物5%、ローム粒子30%	中 中 中 強 弱 弱	土器 第208号 187.188、 195.214 この他の土器片多数 石器 第228号 16	
49	79	75	25	円形	1. 7.5YR3/1(黒褐色) 2. 7.5YR4/4(褐色) 3. 7.5YR4/4(褐色) ローム粒子30%	中 中 中 強 強 強 弱	土器片數点 石器 数点	
50	25	-	47	不明	1. 7.5YR4/3(褐色) ローム粒子3% 2. 7.5YR5/8(明褐色) ローム粒子50%以上	中 中 弱 弱	土器 碎片數点(爪形 文・北白川下層式など)	
51	84	55	27	不整形	1. 7.5YR4/4(褐色) ローム粒子10%	中 中 強	石器 第34号 192 S6号土坑に切られる。出土 遺物はどちらのものか不明	
52	121	102	43	円形	1. 7.5YR7/1(黑色) 2. 7.5YR4/6(褐色) ローム粒子30% 3. 黑褐色 ローム粒子50%以上	中 中 中 強 強 強 中	土器 碎片數点(爪形 文等)	

第4表 ピット一覧表

No.	規模(cm)	平面形	覆 土	粘性	持水性	出土遺物	備 考	
6	55	43	17	梢円形	1. 10YR2/3(黒褐色) 土器片及び炭化物3% 2. ローム層(黒褐色) ローム粒子50%以上	強 中	土器 小瓶片(浮雕文、 羽状浮雕文等)	
7	28	26	11	梢円形	1. 10YR2/3(黒褐色) 土器片及び炭化物3% 2. 黒褐色 ローム粒子50%以上	強 中	石器 第27号 129 26号ピットに切られる	
8	58	-	不 明			なし		
9	24	16	6	梢円形	1. 10YR2/3(黒褐色) 土器片及び炭化物3%	強 中	土器 小瓶片(集合沈 殿文)數点	
10	23	22	7	円形	1. 10YR2/3(黒褐色) 土器片及び炭化物3%	強 中	なし	
11	56	40	27	梢円形	1. 10YR2/3(黒褐色) 土器片及び炭化物3% 2. 10YR3/3(暗褐色) ローム粒子30%	中 中 強	土器 第21号 261 小瓶片(浮雕文、爪形文 等)	
12	24	-	10	不明	1. 10YR2/3(暗褐色) 土器片及び炭化物3%	強 中	なし	
13	24	-	10	不明	1. 10YR2/3(暗褐色) 土器片及び炭化物3% 2. 10YR3/3(暗褐色) ローム粒子30%	強 中 強	なし	
14	41	40	19	円形	1. 10YR2/3(暗褐色) 土器片及び炭化物3% 2. 10YR2/3(暗褐色) ローム粒子30% 3. 黑褐色 ローム粒子50%以上	中 中 強	土器 小瓶片(沈雕文、 龍文等)數点 石器 石器	
15	42	38	17	不整形	1. 7.5YR4/3(褐色) 土器片及び炭化物1%ローム粒子3%	中 中 強	土器 第21号 256 この他の土器片 石器 数点	
16	76	63	18	梢円形	1. 10YR2/3(暗褐色) ローム粒子30% 2. 暗褐色 ローム粒子50%以上	強 中 強	土器 第21号 253.255 26号小瓶片(北白川下 層等)數点	2号住居跡に切られる
17	94	38	21	梢円形	1. 10YR3/2(黒褐色) 2. 10YR3/3(暗褐色) ローム粒子50%	強 中 強	土器 小瓶片(爪形文、 沈雕文)數点	
18	35	27	17	梢円形	1. 7.5YR3/3(暗褐色) ローム粒子30%	強 中 中 強	なし	

19	40	29	11	楕円形	1 10YR2/3(黒褐色) 土器片及び炭化物3% 2 10YR2/3(黒褐色) 土器片及び炭化物3% 3 10YR3/3(暗褐色) ローム粒子30% 3 10YR5/6(褐色) ローム粒子50%以上	強 強 強	中 中 中	なし 土器 小破片数点 石器 敷点	
20	74	48	21	楕円形	1 10YR4/3(褐色) ローム粒子20% 2 10YR5/6(褐色) ローム粒子50%以上	強 強	中 中	なし	
21	49	39	16	楕円形	1 10YR4/3(褐色) ローム粒子20% 2 10YR5/6(褐色) ローム粒子50%以上	強 強	中 中	なし	
22	34	33	14	円形	1 10YR4/3(褐色) ローム粒子20% 2 7.5YR4/3(褐色) ローム粒子10% 2 7.5YR4/1(黒褐色) ローム粒子20%	強 半 強	中 中 中	なし 土器 小破片(沈量文) 敷点	
23	57	34	38	楕円形	1 7.5YR4/3(褐色) ローム粒子10% 2 7.5YR4/1(黒褐色) ローム粒子20%	強 強	弱 弱	なし	
24	22	18	13	楕円形	1 10YR2/2(黒褐色)	中	弱	なし	
25	69	37	39	楕円形	1 7.5YR4/2(褐色) ローム粒子10% 2 10YR4/4(褐色) ローム粒子50%、粗砂10% 3 10YR3/4(暗褐色) ローム粒子20%、径0.2cmの粗砂10%	中 強 強	中 中 中	土器 小破片(沈量文) 敷点	
26	42	25	13	円形	1 10YR2/3(黒褐色) 土器片及び炭化物3%	強	中	土器 第21回 257 小破片数点	7号ビットを切る
27	57	44	50	楕円形	1 7.5YR2/2(黒褐色) 炭化物3%、ローム粒子10% 2 7.5YR5/6(明褐色) ローム粒子30% 3 7.5YR3/1(黒褐色) 炭化物3%	中 中 中	強 強 中	土器 土器片(入組木 文等) 石器 敷点	
28	36	33	19	楕円形	1 7.5YR3/4(暗褐色) ローム粒子10% 2 7.5YR4/3(褐色) ローム粒子10%	中 強	中 中	土器 小破片(沈量文 等) 敷点	
29	46	38	17	不整形	1 7.5YR3/4(暗褐色) 中位に集中して炭化物5%、ローム粒子30%	中	強	なし	
30	73	54	29	不整形	1 7.5YR3/4(暗褐色) 中位に集中して炭化物5%、ローム粒子30% 2 7.5YR3/2(黒褐色)	中 中	強 中	土器 第21回 258 この他に小破片(浮雕文、 北白川下巻式等)	
31	67	55	92	不整形				土器 小破片(瓦形文、 浮雕文、楕文等)	
32	43	29	16	楕円形	1 10YR3/4(暗褐色) 土器片1%、ローム粒子20%	中	弱	なし	
33	27	19	13	楕円形	1 10YR3/4(暗褐色) 土器片1%、ローム粒子20%	中	強	なし	
34	59	45	25	楕円形	1 10YR3/4(暗褐色) 土器片1%、ローム粒子20%	中	強	なし	
35	25	21	9	楕円形	1 10YR2/1(黒色)	中	弱	なし	
36	50	39	18	楕円形	1 10YR3/4(暗褐色) 土器片1%、ローム粒子20%	中	強 石器 敷点	土器 小破片(瓦形文、 浮雕文、楕文等)	
37	57	49	15	不整形	1 10YR3/4(暗褐色) 土器片1%、ローム粒子20%	中	強	なし	
38	46	42	11	不整形	1 10YR3/4(暗褐色) 土器片1%、ローム粒子20%	中	強	土器 小破片数点	
39	40	25	26	楕円形				土器 第21回 254 小破片(浮雕文・糸形文・ 沈量文・楕文等)多量 石器 第28回 141 この他に数点	
40	61	49	18	楕円形	1 7.5YR2/3(暗褐色) ローム粒子7% 2 10YR5/4(にぶい黄褐色) ローム粒子50%以上	中 中	中 中	なし	4号集石下に位置する
41	33	29	9	円形	1 7.5YR3/1(黒褐色) 2 7.5YR2/3(暗褐色) ローム粒子50%	強 弱	中 中	土器 小破片数点	
42	32	30	9	円形	1 7.5YR2/3(暗褐色) ローム粒子50%	弱	弱	土器 小破片数点	
43	38	28	13	楕円形				土器 小破片1点	
44	67	57	40	楕円形	1 7.5YR2/1(暗褐色) 2箇所にロームブロック含む	中	強	土器 小破片数点	
45	-	40	80	不整形	1 7.5YR2/2(暗褐色) 炭化物3% 2 7.5YR3/1(黒褐色) 炭化物3% 3 7.5YR? (明褐色) ローム粒子50%以上	中 中 強	中 中 中	土器 第21回 252 小破片(瓦形文・浮雕文・ 沈量文・楕文等)多量 石器 第28回 141 この他に数点	
46	56	48	28	不整形	1 7.5YR4/4(褐色) ローム粒子20% 2 7.5YR2/1(暗褐色)	中 中	中 中	なし	
47	63	58	33	円形	1 7.5YR2/2(黒褐色) 2 7.5YR3/2(黒褐色) 土器片1% 3 7.5YR4/4(褐色) ローム粒子30% 4 7.5YR4/6(褐色) ローム粒子50%	中 中 中 中	中 中 中 中	土器 第21回 259 この他に土器小破片数点 なし	
48	33	28	24	円形	1 7.5YR4/3(褐色) ローム粒子10% 2 7.5YR5/6(明褐色) ローム粒子50%以上	弱 中	弱 中	なし なし	
49	30	24	44	楕円形	1 7.5YR4/4(褐色) ローム粒子30% 2 7.5YR2/1(暗褐色)	強 強	中 中	土器 小破片数点	
50	48	44	16	円形	1 7.5YR2/1(暗褐色)	中	中	なし	
51	32	29	16	円形	1 7.5YR2/1(黒色) 2 7.5YR4/4(褐色) ローム粒子30%	弱 中	弱 中	なし	
52	42	26	14	楕円形	1 7.5YR7/1(黒色) 2 7.5YR4/3(褐色) ロームをブロック状に30%	弱 中	弱 中	なし なし	
53	55	35	22	不整形	1 7.5YR7/1(黒色) 2 7.5YR4/3(褐色) ローム粒子30%	中 弱	中 弱	なし	
54	47	35	60	楕円形				なし	
55	55	39	25	不整形				土器 小破片(北白川下巻式等) 敷点 石器 敷点	
56	30	17	24	楕円形	1 7.5YR2/3(暗褐色) ローム粒子10%	中	弱	なし	

57	62	50	17	円形	1 7.5YR4/4(褐色) ローム粒子30%	中	中	なし
58	50	-	1	7.5YR2/2(黒褐色)	炭化物3%、ローム粒子10%	強	強	なし
59	-	28	不明	7.5YR2/2(黒褐色)	炭化物及び炭化材を5%	中	弱	なし
60	60	54	14	円形	1 7.5YR4/4(褐色) ローム粒子30%	中	強	土器 小破片散在
61	63	48	40	円形	1 7.5YR7/1(黒色) 2 7.5YR4/3(褐色) ローム粒子30% 3 7.5YR4/4(褐色) ローム粒子30%	弱	弱	
62	54	33	79	不整形		中	中	
63	66	55	52	円形	1 7.5YR3/1(黒褐色) ローム粒子10% 2 7.5YR2/2(黒褐色) ローム粒子30% 3 7.5YR? (明褐色) ローム粒子50%以上	中	中	土器 小破片(爪痕文、平行沈亂文、北白川下層式等)
						中	強	石器 第22回 17号散在

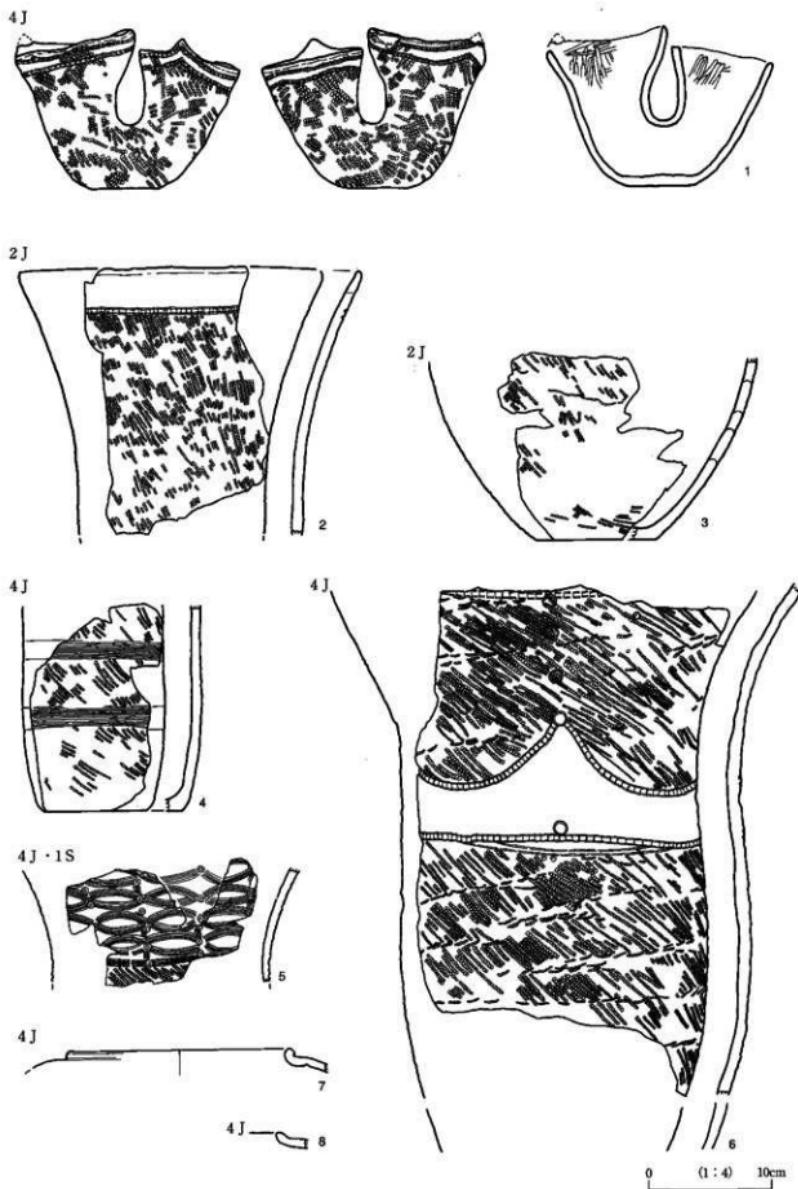
第5表 石器観察表

番号	種別	石質	長さ	幅	厚さ	重さ	出土状態	備考
1	石鏡	チャート	5.0	1.6	0.4	31	E区上面確認	凸基無基 光形 赤色
2	石鏡	安山岩	32	20	0.6	36	4号住居跡8号ピット	平基無基 光形 黒色
3	石鏡	チャート	1.7	1.4	0.3	0.7	4号住居跡	平基無基 光形 赤色・暗緑色
4	石鏡	黑曜石	20	17	0.4	0.9	4号住居跡8	平基無基 光形
5	石鏡	黑曜石	(20)	24	0.7	22	4号住居跡26	平基無基 光形 頸部欠損あり
6	石鏡	チャート	(25)	15	0.5	14	4号住居跡5号ピット	平基無基 光形 欠損あり
7	石鏡	黒曜石	(24)	(21)	0.5	25	4号住居跡23	平基無基 光形 欠損あり
8	石鏡	黒曜石	(11)	23	0.3	10	4号住居跡	平基無基 光形 欠損あり
9	石鏡	黒曜石	(14)	13	0.5	0.6	4号住居跡	平基無基 光形 欠損あり
10	石鏡	黒曜石	(23)	(23)	0.6	21	1号住居跡(3号住居跡)	平基無基 光形 欠損あり
11	石鏡	黒曜石	(16)	17	0.3	0.7	1号住居跡	平基無基 光形 先端部大損あり
12	石鏡	黒曜石	(15)	15	0.3	0.6	2号住居跡	平基無基 光形 丸端部大損あり
13	石鏡	黒曜石	1.6	1.5	0.2	0.5	47号土坑	平基無基 光形 完形
14	石鏡	黒曜石	(25)	18	0.7	27	6号集石	形状不明 平基無基 かはらか?
15	石鏡	黒曜石	2.0	1.9	0.4	1.1	34号土坑	平基無基 基部欠損あり
16	石鏡	黒曜石	2.6	1.7	0.6	1.7	48号土坑	平基無基 光形
17	石鏡	黒曜石	(14)	19	0.6	1.3	63号ビット	平基無基 光形
18	石鏡	黒曜石	2.3	20	0.6	1.7	4号住居跡(3号住居跡)	平基無基 光形
19	石鏡	黒曜石	1.8	13	0.5	0.8	D区上面確認	平基無基 光形
20	石鏡	黒曜石	(18)	(16)	0.3	0.6	上面確認	平基無基 光形 欠損あり
21	石鏡	黒曜石	2.3	15	0.4	1.0	上面確認	平基無基 光形
22	石鏡	黒曜石	2.2	16	0.5	1.1	南・北面確認	平基無基 光形
23	石鏡	黒曜石	1.8	15	0.5	1.0	D区西黒色土上面確認	平基無基 光形
24	石鏡	黒曜石	2.3	21	0.5	2.0	上面確認	平基無基 光形
25	石鏡	黒曜石	(29)	21	0.6	24	20号土坑付近上山確認	平基無基 光形 先端部欠損あり
26	石鏡	黒曜石	1.7	(15)	0.4	0.8	上面確認	平基無基 光形 欠損あり
27	石鏡	黒曜石	1.6	(16)	0.4	0.8	D区北上面確認	平基無基 光形 欠損あり
28	石鏡	黒曜石	1.6	16	0.5	0.7	D区北上面確認	平基無基 光形
29	石鏡	黒曜石	1.9	(14)	0.3	0.7	D区北上面確認	平基無基 光形 欠損あり
30	石鏡	黒曜石	2.5	(15)	0.4	1.2	上面確認	平基無基 光形 欠損あり
31	石鏡	黒曜石	(27)	(21)	0.6	27	D区南上面確認	平基無基 光形 欠損あり
32	石鏡	黒曜石	2.0	17	0.4	0.9	上面確認	平基無基 光形
33	石鏡	黒曜石	1.5	14	0.6	1.0	上面確認	平基無基 光形
34	石鏡	黒曜石	(15)	18	0.3	0.8	4号住居跡	平基無基 先端部欠損あり
35	石鏡	黒曜石	(22)	24	0.5	2.2	4号住居跡	平基無基 少頭部欠損あり
36	石鏡	黒曜石	(18)	13	0.3	0.4	D区西黒色土上面確認	平基無基 先端部欠損あり
37	石鏡	黒曜石	2.6	(1.5)	0.3	1.2	南・北面確認	円基無基 基部欠損あり
38	石鏡	黒曜石	(25)	(20)	0.8	20	4号住居跡	円基無基 欠損あり
39	石鏡	黒曜石	(16)	16	0.3	0.6	D区西黒色土上面確認	円基無基 先端部欠損あり
40	石鏡	黒曜石	2.4	13	0.6	1.0	4号住居跡(3号住居跡)	尖花無基 光形
41	石鏡	黒曜石	2.5	17	0.8	2.0	D区上面確認	尖花無基 光形
42	石鏡	黒曜石	(14)	19	0.2	0.6	D区西黒色土上面確認	尖花無基 先端部欠損あり
43	石鏡	黒曜石	2.1	14	0.4	0.9	2号住居跡	同基無基 光形 赤色
44	石鏡	黒曜石	(13)	18	0.3	0.5	2号住居跡	同基無基 光形
45	石鏡	黒曜石	(27)	18	0.6	1.8	4号住居跡	同基無基 先端部欠損あり
46	石鏡	黒曜石	2.1	14	0.4	0.7	4号住居跡	同基無基 光形
47	石鏡	黒曜石	2.2	(15)	0.3	0.7	4号住居跡	同基無基 基部欠損あり
48	石鏡	チャート	2.0	16	0.3	0.4	4号住居跡14	同基無基 光形
49	石鏡	安山岩	(21)	16	0.3	0.7	4号住居跡14	同基無基 光形
50	石鏡	黒曜石	2.2	24	0.4	1.6	4号住居跡	同基無基 黑色
51	石鏡	黒曜石	1.0	12	0.3	0.1	4号住居跡17	同基無基 光形
52	石鏡	チャート	2.1	18	0.3	0.6	4号住居跡9	同基無基 光形
53	石鏡	黒曜石	1.4	19	0.3	0.4	4号住居跡	同基無基 光形
54	石鏡	黒曜石	(16)	14	0.3	0.8	4号住居跡	同基無基 先端部欠損あり
55	石鏡	黒曜石	(19)	23	0.4	1.1	4号住居跡7	同基無基 基部欠損あり
56	石鏡	黒曜石	(27)	(16)	0.7	2.1	4号住居跡26	同基無基 光形
57	石鏡	黒曜石	(22)	(21)	0.4	0.6	4号住居跡	同基無基 光形
58	石鏡	黒曜石	(25)	(15)	0.4	0.9	4号住居跡24	同基無基 基部欠損あり
59	石鏡	黒曜石	(17)	23	0.5	1.4	4号住居跡5号ピット	同基無基 光形
60	石鏡	黒曜石	(20)	(19)	0.3	0.4	4号住居跡	同基無基 光形
61	石鏡	黒曜石	(19)	(27)	0.4	1.4	22号土坑	同基無基 光形
62	石鏡	黒曜石	1.7	18	0.2	0.2	4号住居跡	同基無基 光形
63	石鏡	黒曜石	1.4	(1.3)	0.3	0.2	4号住居跡	同基無基 基部欠損あり

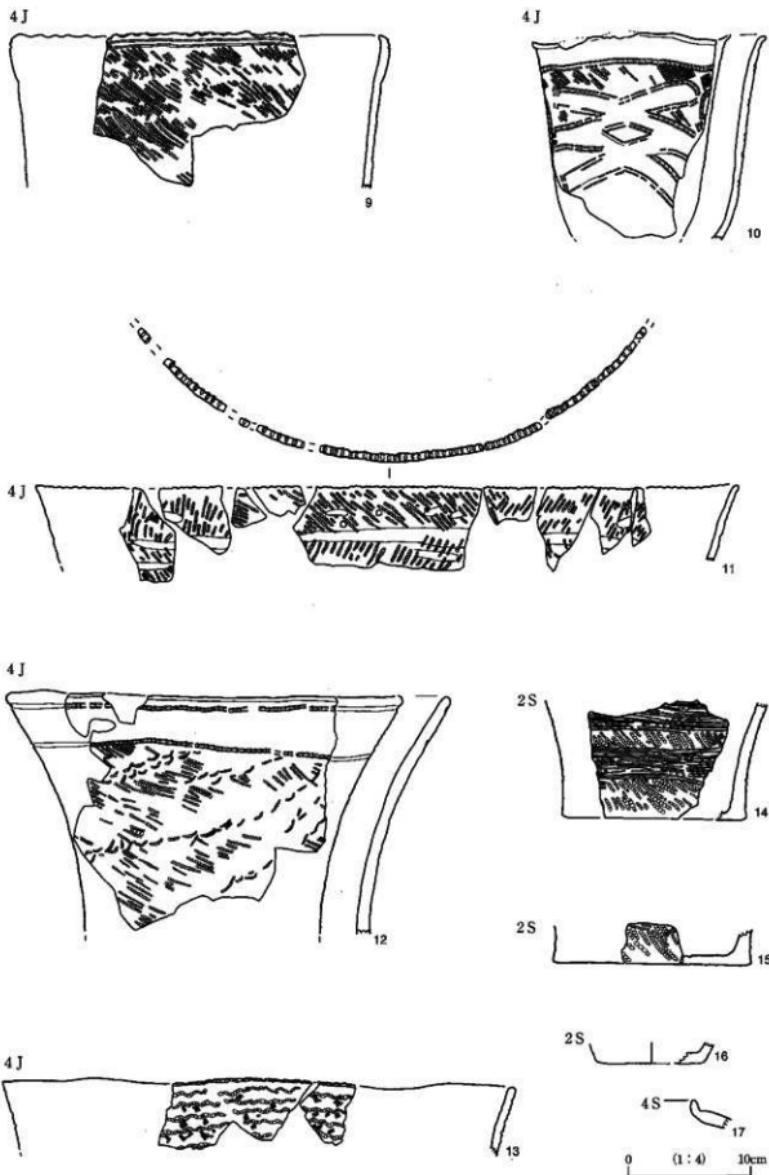
64	石綿	黒曜石	(15)	(15)	0.3	0.5	4号住居址 (3号住居址)	円基無多 基部欠損あり
65	石綿	黒曜石	(12)	(14)	0.5	0.6	4号住居址 (3号住居址)	円基無多 基部欠損あり
66	石綿	チャート	(20)	(16)	0.2	0.5	4号住居址 (3号住居址)	円基無多 基部欠損あり 赤色
67	石綿	黒曜石	18	14	0.5	0.6	4号住居址 (3号住居址)	円基無多 完形
68	石綿	黒曜石	26	23	0.8	3.0	4号住居址 (3号住居址)	円基無多 完形
69	石綿	黒曜石	(22)	(12)	0.5	0.8	4号住居址 (3号住居址)	円基無多 完形
70	石綿	黒曜石	(16)	(18)	0.3	0.2	4号住居址 (3号住居址)	円基無多 完形
71	石綿	黒曜石	(27)	(17)	0.3	0.9	4号住居址 (3号住居址)	円基無多 完形
72	石綿	黒曜石	(29)	(20)	0.3	0.9	4号住居址 (3号住居址)	円基無多 完形
73	石綿	黒曜石	(20)	(20)	0.5	1.4	4号住居址 (3号住居址)	円基無多 完形
74	石綿	黒曜石	19	19	0.3	0.6	34号土坑	円基無多 完形
75	石綿	黒曜石	14	15	0.3	0.4	2号土坑	円基無多 完形
76	石綿	砂沙岩	(29)	(16)	0.7	2.2	1号集石	円基無多 基部欠損あり
77	石綿	黒曜石	(23)	21	0.3	1.0	上面確認	円基無多 先端部欠損あり
78	石綿	黒曜石	(17)	(15)	0.2	0.4	D区北黒色土上面確認	円基無多 基部欠損あり
79	石綿	黒曜石	(21)	(15)	0.3	0.6	19号土坑	円基無多 基部欠損あり
80	石綿	黒曜石	19	19	0.3	0.5	34号土坑	円基無多 基部欠損あり
81	石綿	黒曜石	21	15	0.3	0.7	D区上面確認	円基無多 完形
82	石綿	黒曜石	20	19	0.4	1.0	E区上面確認	円基無多 完形
83	石綿	黒曜石	17	17	0.3	0.5	D区上面確認	円基無多 完形
84	石綿	黒曜石	16	15	0.3	0.5	出土地点不明	円基無多 完形
85	石綿	黒曜石	(16)	21	0.2	0.8	上面確認	円基無多 欠損あり
86	石綿	黒曜石	(19)	(22)	0.3	0.7	D区下面確認	円基無多 基部欠損あり
87	石綿	黒曜石	(13)	(15)	0.3	0.3	E区下面確認	円基無多 基部欠損あり
88	石綿	黒曜石	(15)	10	0.2	0.3	上面確認	円基無多 基部欠損あり
89	石綿	黒曜石	(23)	21	0.4	0.9	D区上面確認	円基無多 基部欠損あり
90	石綿	黒曜石	(15)	(15)	0.3	0.5	上層確認	円基無多 基部欠損あり
91	石綿	黒曜石	(27)	(18)	0.5	1.4	D区上面確認	円基無多 基部・先端部欠損あり
92	石綿	黒曜石	09	09	0.2	0.1	D-E区境付近上面確認	円基無多 片面調整なし
93	石綿	チャート	(23)	(12)	0.4	1.4	上面確認	円基無多 欠損あり 赤色
94	石綿	黒曜石	(17)	(13)	0.3	0.4	上面確認	円基無多 基部欠損あり
95	石綿	黒曜石	(18)	(11)	0.2	0.3	上面確認	円基無多 基部欠損あり
96	石綿	黒曜石	10	11	0.2	0.1	辺土表抜	円基無多 完形
97	石綿	黒曜石	18	18	0.3	0.2	D区東黒色土上面確認	円基無多 完形
98	石綿	黒曜石	(17)	(20)	0.2	0.3	D区上面確認	円基無多 基部欠損あり
99	石綿	黒曜石	(20)	17	0.8	2.0	D区西黒色土上面確認	形状不明 失取品か？ 先端部作出あり
100	石綿	黒曜石	(22)	(12)	0.4	0.7	4号住居址8号ピット	円基無多 基部・欠損あり
101	石綿	チャート	(20)	(16)	0.4	1.0	4号住居址8号ピット	平底無多 欠損あり
102	石綿	黒曜石	(15)	24	0.5	1.2	4号住居址8号ピット	中基無多 欠損感あり
103	石綿	黒曜石	(19)	(14)	0.5	0.8	4号住居址8号ピット	形状不明 因基無多か？ 欠損部あり
104	石綿	黒曜石	(22)	(10)	0.2	0.4	4号住居址8号ピット	形状不明 因基無多か？ 欠損部あり
105	石綿	黒曜石	(17)	(18)	0.4	0.7	4号住居址8号ピット	形状不明 欠損部あり
106	石綿	黒曜石	(26)	(17)	0.6	2.1	4号住居址8号ピット	形状不明 欠損部あり 大型の石頭 調整は大きめ
107	石綿	黒曜石	(13)	(12)	0.2	0.2	4号住居址8号ピット	円基無多 大型あり
108	石綿	黒曜石	(17)	(18)	0.3	0.6	4号住居址8号ピット	形状不明 大型あり
109	石綿	黒曜石	(16)	(09)	0.3	0.3	4号住居址8号ピット	形状不明 大型あり 刃部の調整は大きめ
110	石綿	チャート	(19)	(20)	0.05	0.8	4号住居址8号ピット	形状不明 大型あり
111	石綿	黒曜石	(22)	(11)	0.6	1.0	4号住居址8号ピット	基部欠損あり
112	片岩	黒曜石	18	35	0.6	2.0	4号住居址8号ピット	前面面が主に削除はわずか
113	片岩	黒曜石	19	10	0.3	0.6	4号住居址8号ピット	調整はほとんどある
114	片岩	黒曜石	23	19	0.5	2.0	4号住居址8号ピット	自然面で残さない片岩
115	片岩	黒曜石	24	15	0.7	1.8	4号住居址8号ピット	製作途中もしくは失取品両面に崩落
116	刃物	チャート	42	(32)	10	0.95	4号住居址8号ピット	両面に片面削りつ方をついている
117	スクレーパー	黒曜石	30	29	1.3	8.0	D区北黒色土上面確認	D区北黒色土上面確認
118	スクレーパー	黒曜石	(22)	(22)	0.8	3.9	4号住居址	基部欠損あり
119	スクレーパー	チャート	34	57	11	18.2	4号住居址 (3号住居址)	刃部は背面側から調整 色変
120	スクレーパー	黒曜石	(28)	(24)	0.4	2.5	上面確認	刃部は背面調整
121	スクレーパー	黒曜石	29	25	0.5	1.6	4号住居址	
122	石核	黒曜石	19	22	2.0	8.8	上面確認	ほほ彫形
123	スクレーパー	黒曜石	18	22	0.7	2.2	20号土坑	
124	石核	チャート	24	33	0.6	2.5	D区上面確認	横型 刃部旋轉 完形 赤色
125	石核	砂岩	25	45	0.5	4.8	4号住居址7	横型 刃部旋轉 完形 赤色
126	石核	砂岩	23	61	0.4	5.0	4号住居址 (3号住居址)	横型 刃部旋轉 完形 明天色
127	石核?	チャート	(15)	(17)	0.4	1.2	4号住居址	折れ 刃部欠損あり 赤色
128	石核	安山岩	(16)	(41)	0.5	3.8	4号住居址 (3号住居址)	横型 刀部削減 大幅あり 明緑色
129	石核	チャート	20	43	0.6	6.0	7号ピット	横型 刀部削減 完形 深緑色
130	石核	黒曜石	22	22	0.5	4.3	4号住居址 (3号住居址)	横型 刀部直線 完形 黒色
131	石核	チャート	20	29	0.6	2.4	上面確認	横型 刀部分離 完形 刀部欠損 緑色・明灰色
132	石核	黒曜石	(5.3)	15	0.8	7.2	4号住居址 (3号住居址)	横型 先端部欠損 刀部縁を先端部まで削除
133	石核	黒曜石	37	0.9	0.5	2.7	上面確認	縦型 完形
134	石核	黒曜石	34	15	0.7	2.4	35号土坑	縦型 完形
135	石核	黒曜石	44	0.7	0.7	2.4	上面確認	縦型 右面側に両縁の調整による刃部作出
136	石核	安山岩	43	22	0.8	4.0	上面確認	縦型 黒色
137	石核	黒曜石	23	16	0.6	1.5	4号住居址	縦型 完形
138	石核	安山岩	34	20	0.5	2.6	4号住居址18	縦型 黒色
139	石核	チャート	33	17	0.6	2.2	4号住居址	縦型 完形
140	石核	黒曜石	(41)	11	0.7	2.8	4号住居址	基部欠損 抜けあり 斧縁に刃部作成
141	嵌入耳飾り	石英	直径10	14	0.8	4.0	39号ピット	1/2以上欠損 一方向からの穿孔 赤色
142	管毛	碧砂岩	2.3	直徑13	0.5	3.3	4号住居址	1/2欠損 南方向からの穿孔 緑色
143	嵌入耳飾り	碧砂岩	直徑32	11	0.7	4.6	4号住居址 (3号住居址)	1/2欠損 斧底色
144	装飾品	滑石	直径24	0.5	4.1	31号土坑	周囲に木根などは斜面が認められる	
145	石核	黒曜石	3.5	41	1.8	19.5	上面確認	裏面に自然面がある

146	打裂石斧	砂岩片岩	9.8	3.9	14	50.1	2号住居址	画面には猿面(破損後に裏蓋?)が認められる
147	打裂石斧	砂岩片岩	9.6	4.6	15	71.1	4号住居址(3号住居址)	画面は大きめである
148	打裂石斧	砂岩	(9.8)	6.6	13	(150.0)	拂土表様	裏面は摩滅している 上部わずかに欠損
149	方釜	砂岩	6.9	5.6	18	37.2	4号住居址D区上	何かの再利用品か? 裏面に擦画あり
150	刃器	砂岩板岩	7.2	4.6	20	21.8	上面確認	種類などは不明
151	刃器	薄層巖灰岩?	7.3	4.1	14	43.9	表様	背部は平らな面を作り出している
152	磨石#	砾灰岩	(11.5)	(7.8)	(4.1)	(390.0)	4号住居址C区	欠損部を箆蓋で被らやすくしてある 付着物あり
153	磨石	砂岩	9.9	7.9	65	805.0	4号住居址	表面は擦運動により平らになっている 付着物あり 擦画は何面かに分けられる
154	磨石#	安山岩	(10.7)	(8.9)	75	(890.0)	4号住居址	全面を擦って丸くしてある
155	磨石*	砂岩	2.8	2.3	15	15.1	4号住居址中	前面および裏面は擦画がはっきりしない
156	磨石*	砂岩	2.4	2.4	23	11.3	4号住居址	裏面は丸みを帯びるが裏面は半である
157	磨石*	砂岩	(9.8)	(6.7)	(6.0)	(430.0)	4号住居址A区	付着物が認められる 風化が進んでいる
158	磨石#	安山岩	(14.1)	(6.7)	(4.6)	(650.0)	4号住居址床?	裏面も擦ってあると思われる
159	凹石*	砾岩?	7.4	5.9	(13.4)	(170.0)	4号住居址	全面とよく擦てある 異常大頃 敵打部あり?
160	凹石*	砂岩	10.2	7.6	(4.7)	(495.0)	4号住居址A-D区3	両面ともよく擦てある
161	凹石*	安山岩	10.9	8.3	61	775.0	4号住居址4	他の右部の転用か? 上部に箆蓋あり
162	凹石#	砂岩	(8.9)	(7.6)	(3.9)	(300.0)	4号住居址D区中	下部後部は磨耗が強い
163	敲石	砂岩	(17.8)	6.4	45	(950.0)	4号住居址	付着物あり 表面はよく擦てある
164	敲石*	砂岩	13.0	(9.2)	(8.9)	1705.0	3号壁面	表面のくぼみは他川によるものか?
165	敲石#	安山岩	10.9	9.0	35	450.0	5号表素	裏面と裏面は全体的に擦つてある
166	凹石*	砂岩	(12.6)	7.8	58	(930.0)	5号集石	裏面と裏面が擦つてあると思われる
167	凹石*	安山岩	9.1	7.7	48	420.0	26号下坑	裏面と裏面が擦つてあると思われる
168	底石#	砂岩	(8.0)	(7.0)	(3.2)	(185.0)	表様	全面では全体にわたり付着物あり
169	底石	石灰安山岩	10.8	11.2	51	795.0	上面確認	ほぼ全体的に擦つてある
170	磨石#	砂岩	5.4	5.2	46	175.0	上面確認	全体的に擦つてある 付着物あり
171	磨石#	砂岩	(8.2)	(8.1)	(5.1)	(390.0)	上面確認	全面とよく擦てある 赤色付着物あり
172	磨石#	砂岩	9.7	9.2	29	355.0	E区北壁	赤色の付着物がほぼ全面に見られる
173	凹石*	安山岩	(7.7)	(8.7)	(4.4)	(280.0)	上面確認	裏面欠損
174	磨石	砂岩	(14.4)	(7.4)	(4.0)	(650.0)	上面確認	石側面のくぼみも敵打部か?
175	磨石*	砂岩	12.9	7.4	53	(620.0)	上面確認	表面は全体的に擦つてある 裏面にも擦面あり
176	不明	粘板岩	11.7	6.1	18	185.0	4号住居址(3号住居址)	種類不明 わずかに箆蓋あり
177	不明*	砂岩	(6.8)	(3.7)	(2.8)	(721.0)	拂土表様	種類不明 砂石か? 風化が激しい
178	磨石*	砂岩	(7.1)	(7.2)	(5.6)	(215.0)	上面確認	表面と裏面にあらくほんは欠損か?
179	敲石#	砂岩	(19.4)	(9.7)	(8.2)	1780.0	3分量石	わずかに付着物あり 欠損以外は擦つてある
180	石皿#	砂岩	(19.7)	(21.7)	(10.5)	(4600.0)	4号住居址19	付着物あり 表面が擦つてあると思われる
181	台石#*	砂岩	(9.7)	(12.6)	(6.3)	(955.0)	4号住居址A区	全面を擦つてある 自然による風化が激しい
182	台石?	砂岩	(11.9)	(6.7)	(5.6)	(645.0)	4号住居址3	表面上面に擦面が見られる
183	石皿	砂岩	(18.4)	(16.2)	(4.7)	(1510.0)	4号住居址5	画面および前歯の一部に付着物
184	石皿*	砂岩	(16.1)	(15.2)	(6.4)	(1700.0)	4号住居址5	裏面の擦面は貝殻のものか?
185	台石?	不明	(33.1)	(20.6)	(7.8)	(5200.0)	4号住居址8号ビット	石皿と並んで出土 周面および裏面も擦つてある
186	台石#	砂岩	(15.7)	(12.3)	(5.5)	(117.0)	4号住居址B区	双口十目鋸と並んで出土する付着物・擦面あり
187	石皿*	砂岩	(13.7)	(24.8)	142	4500.0	4号住居址8号ビット	台石と並んで出土 周面に摩減面あり
188	石皿#	砂岩	(24.4)	(16.6)	(8.8)	(3400.0)	4号住居址15	付着物あり 裏面欠損
189	石皿#	砂岩	(9.3)	(11.2)	(7.1)	(735.0)	7号集石	全体的に擦つてある わずかに付着物あり
190	石皿#	砂岩	(13.0)	(12.5)	(4.4)	(1090.0)	27号土坑	裏面も擦つてある 付着物あり
191	石皿*	安山岩	(5.2)	(5.0)	(3.4)	(75.0)	34号土坑	裏面もさらにしょく開窓してある
192	石皿*	砂岩	(11.3)	(15.3)	(10.1)	(2300.0)	51号土坑	欠損部以外は擦つてある 敵打しているか?
193	石皿*	砂岩	(10.7)	(7.3)	(6.8)	(640.0)	表様	欠損部が多く、風化が進んでいる
194	石皿*	砂岩	(13.0)	(10.2)	55	(950.0)	上面確認	側面も擦つてある
195	石皿*	安山岩	(10.8)	(8.2)	48	(510.0)	E区表様	素材全体を形成し、直面を作り出している

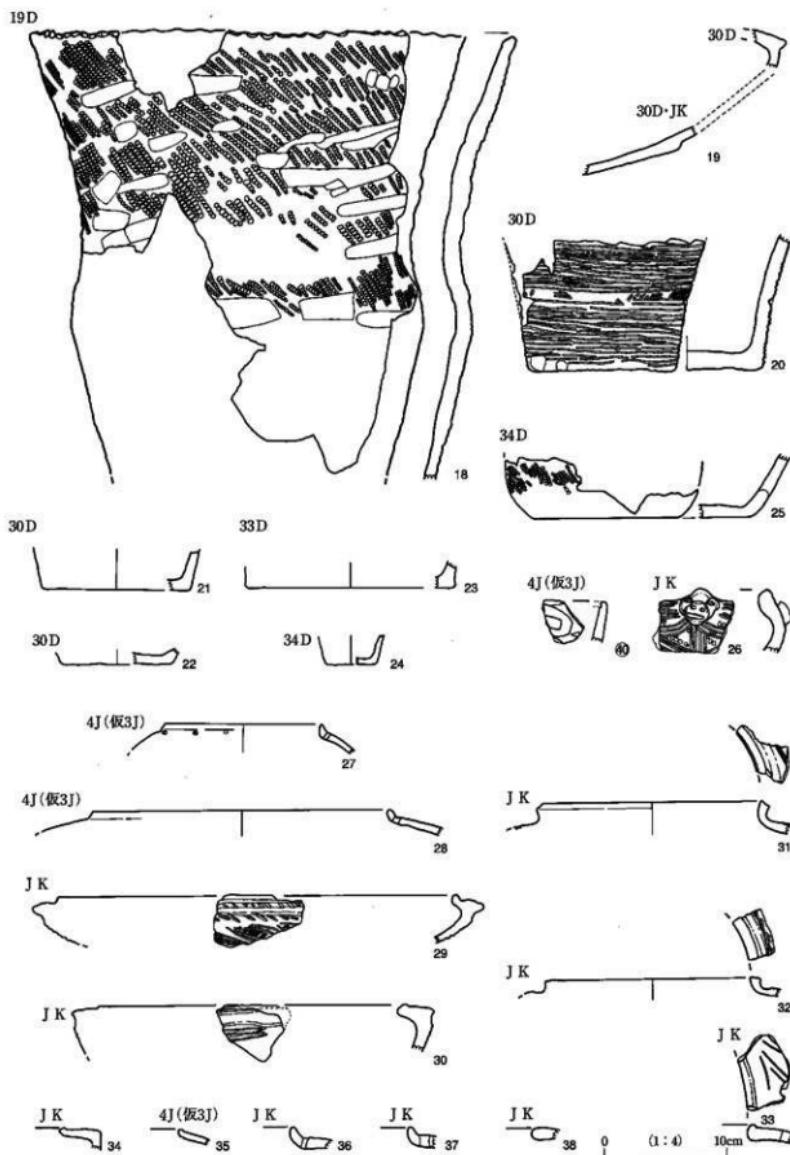
*…被熱しているもの #…付着物あり 法量についてはすべて最大値である



第14図 出土土器実測図 1

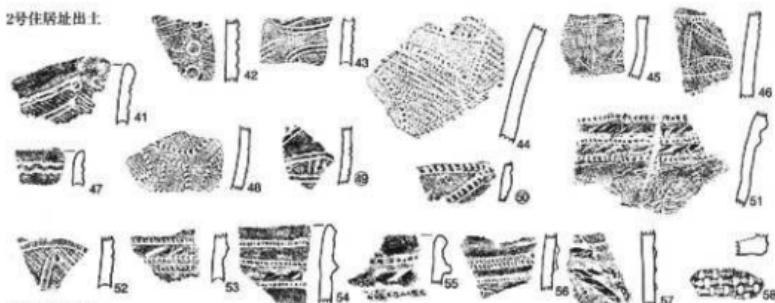


第15図 出土土器実測図 2

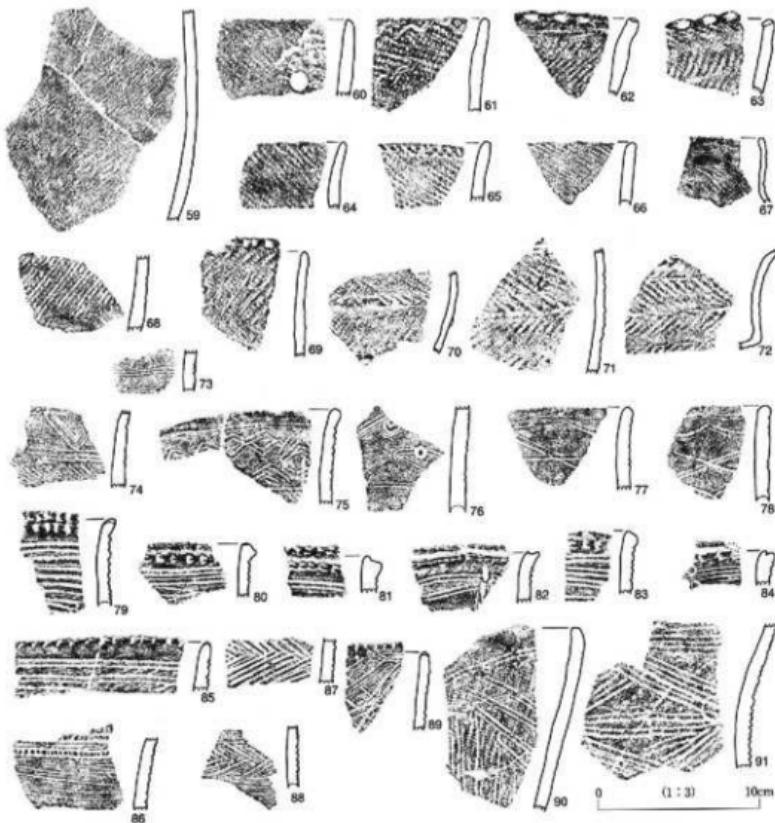


第16図 出土土器実測図 3

2号住居址出土

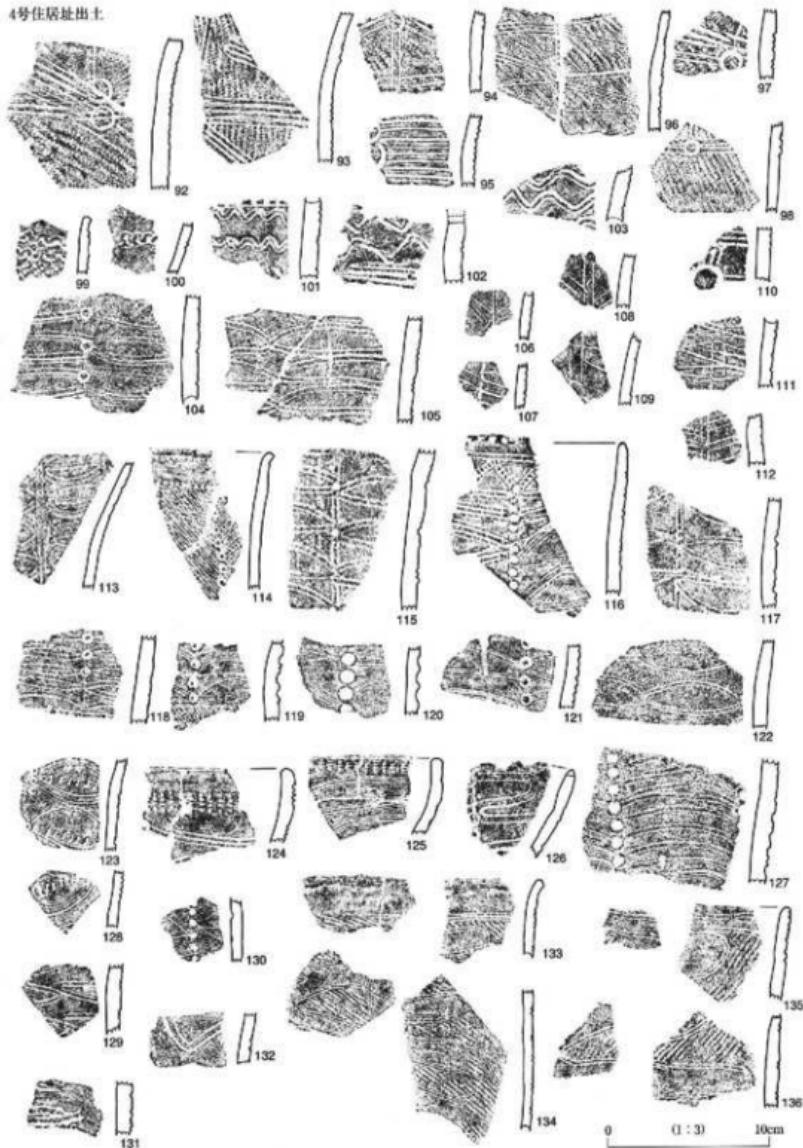


4号住居址出土



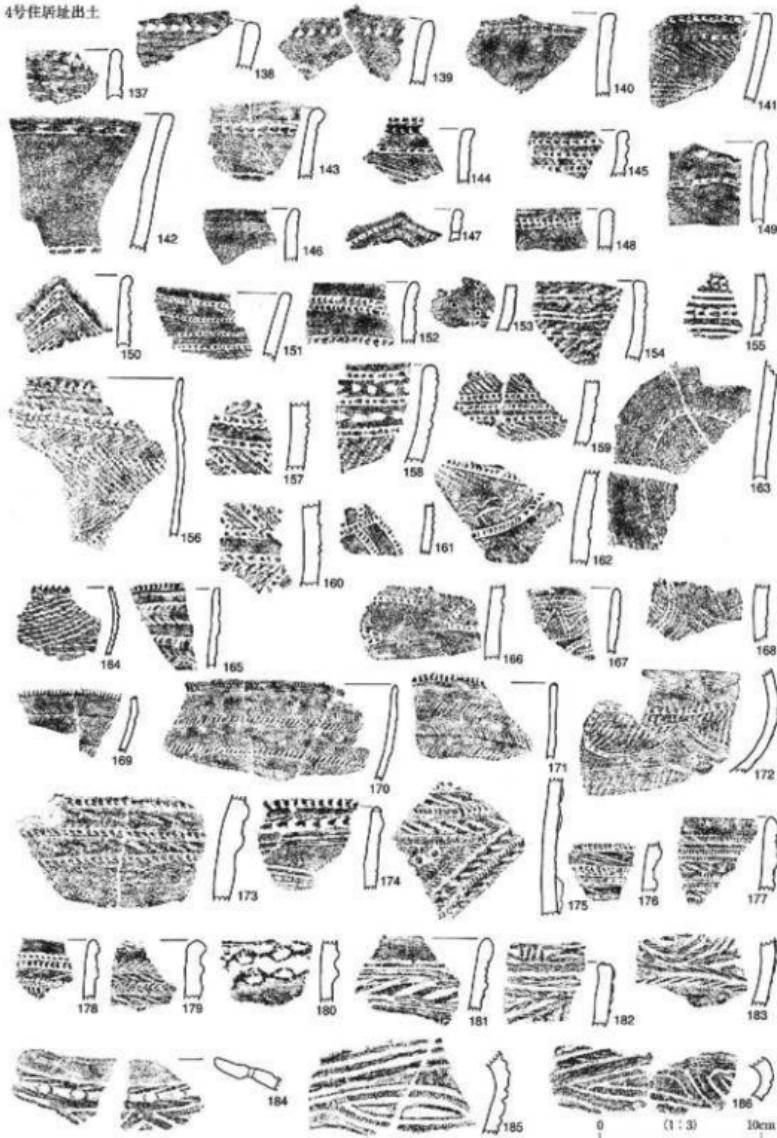
第17图 出土土器拓影图 1

4号住居址出土

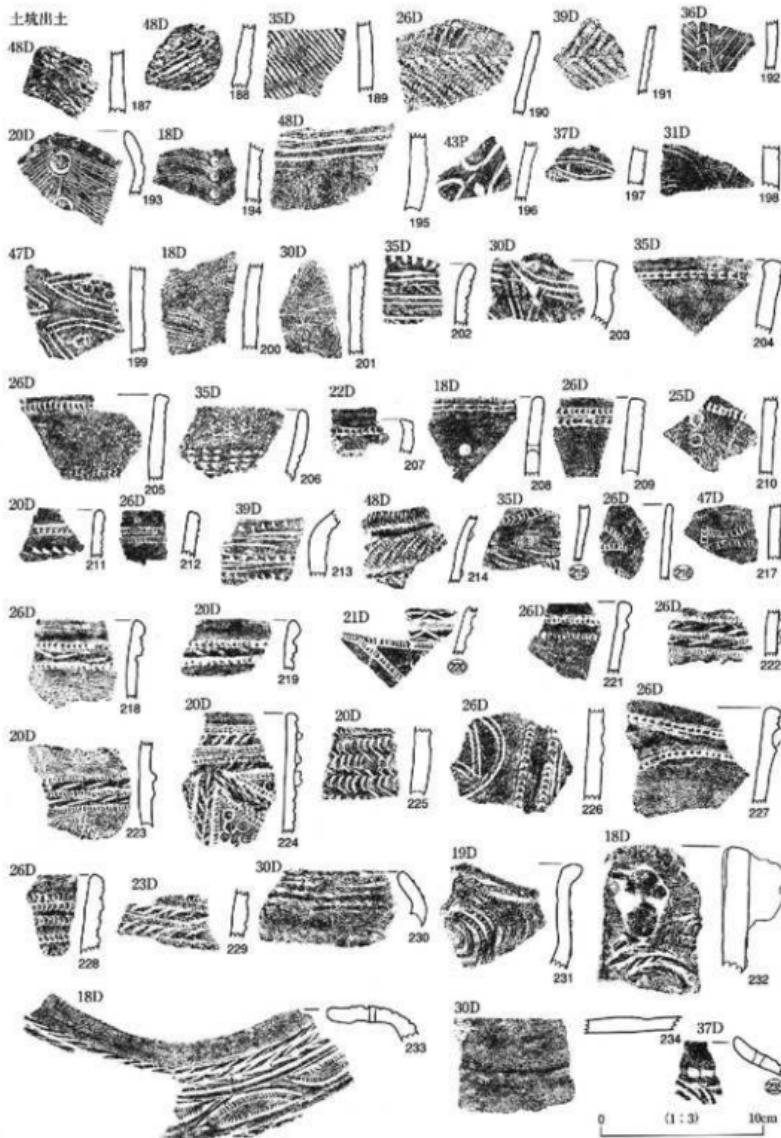


第18圖 出土土器拓影圖 2

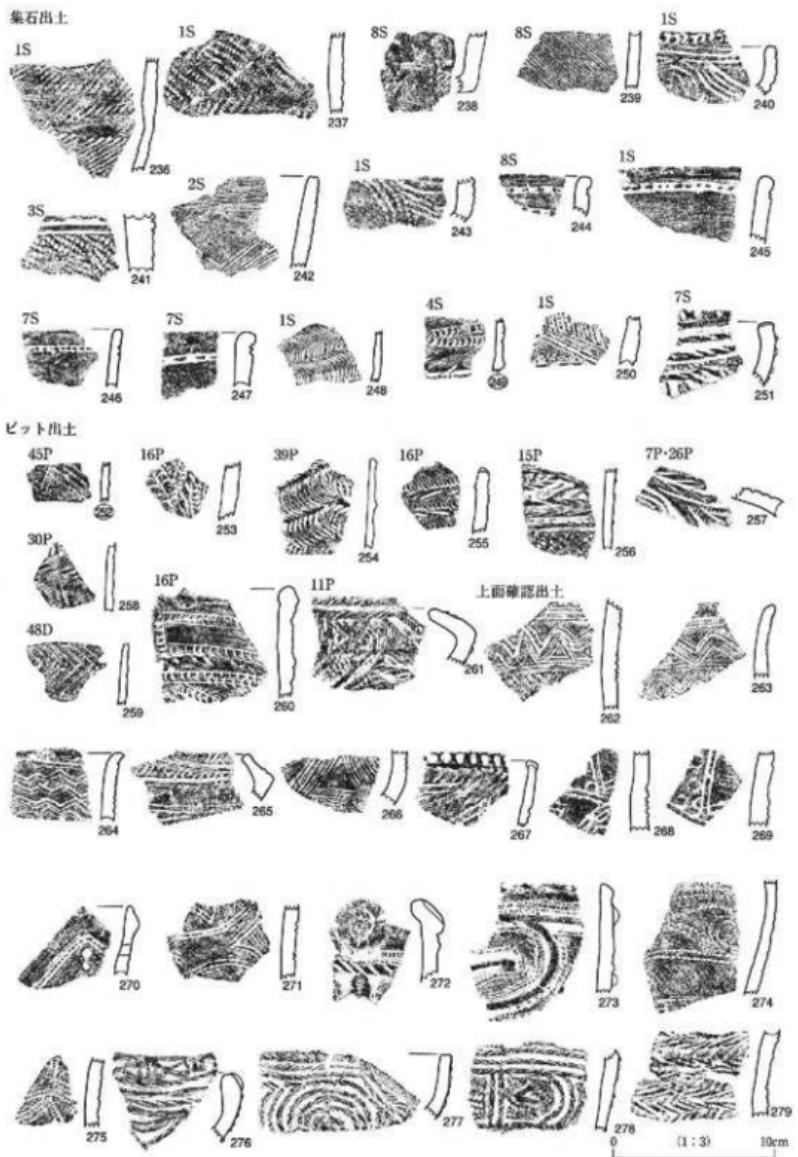
4号住居址出土



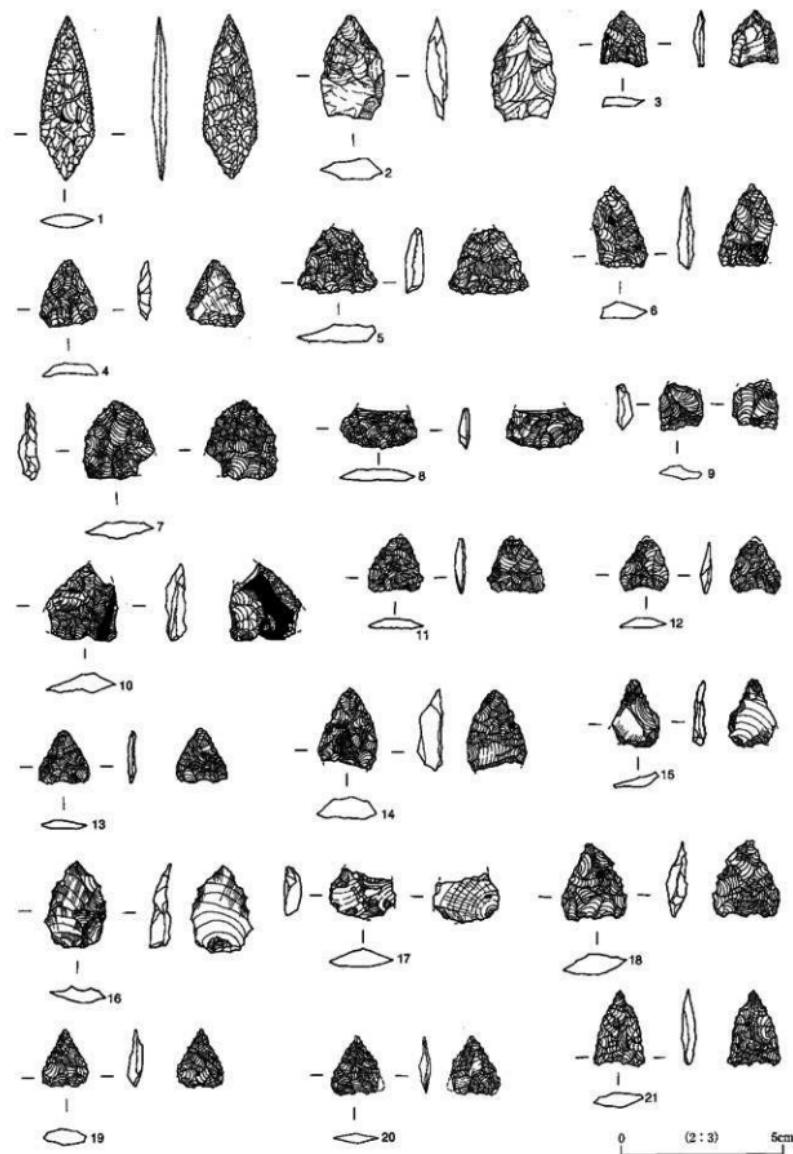
第19図 出土土器拓影図 3



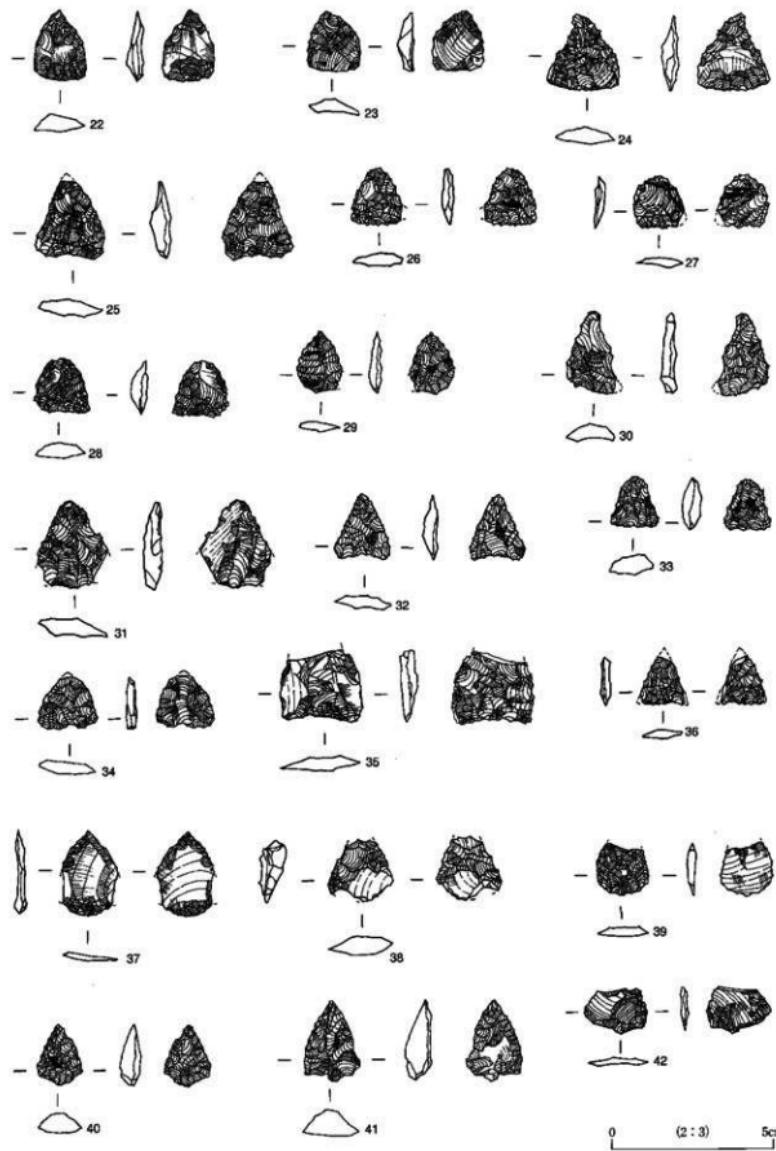
第20圖 出土土器拓影圖 4



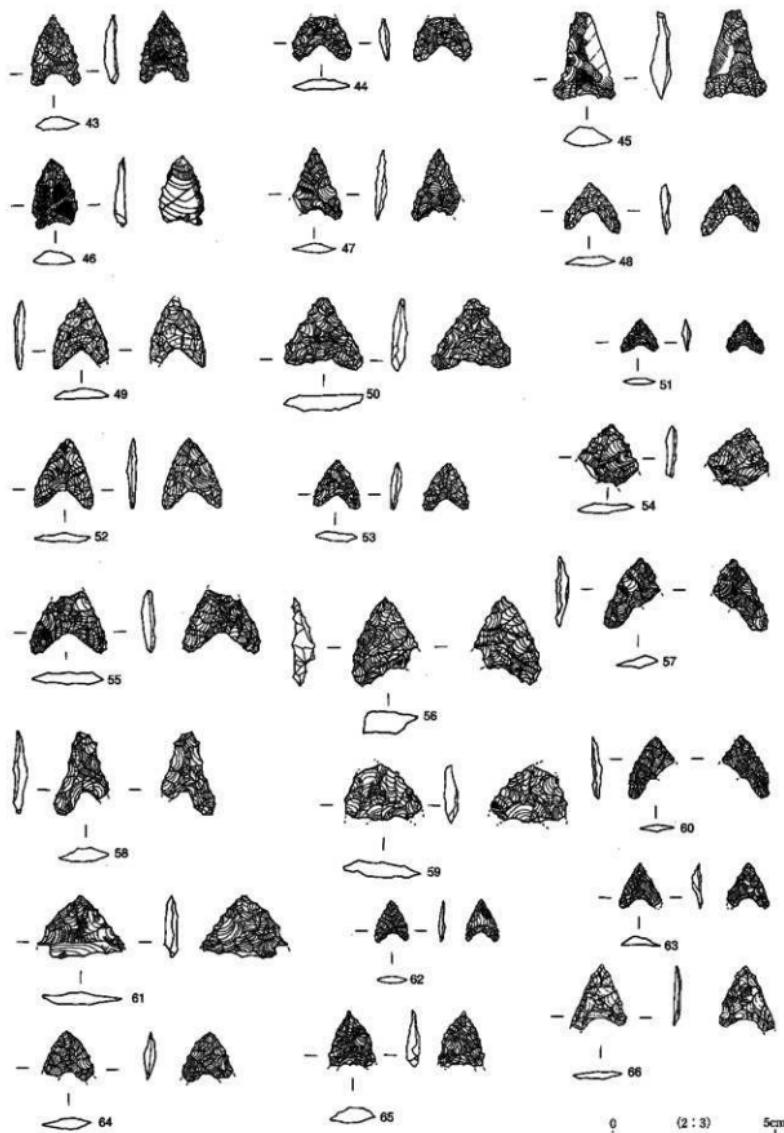
第21図 出土土器拓影図 5



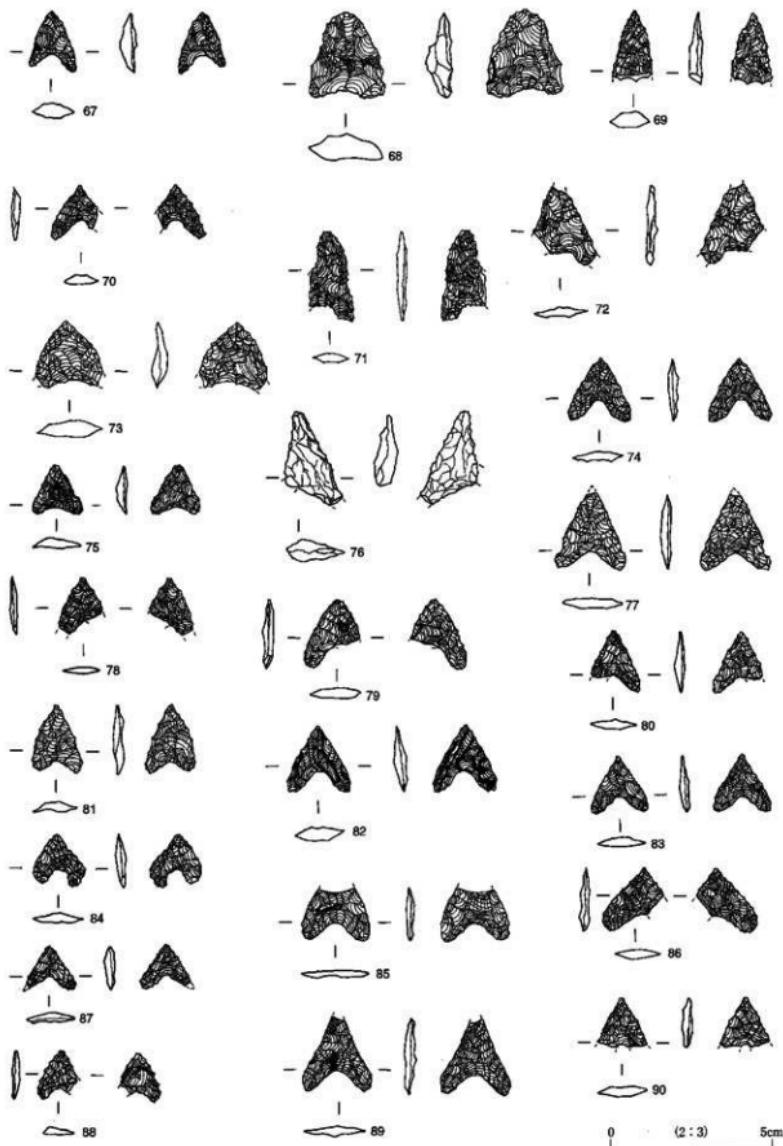
第22圖 出土石器實測圖 1



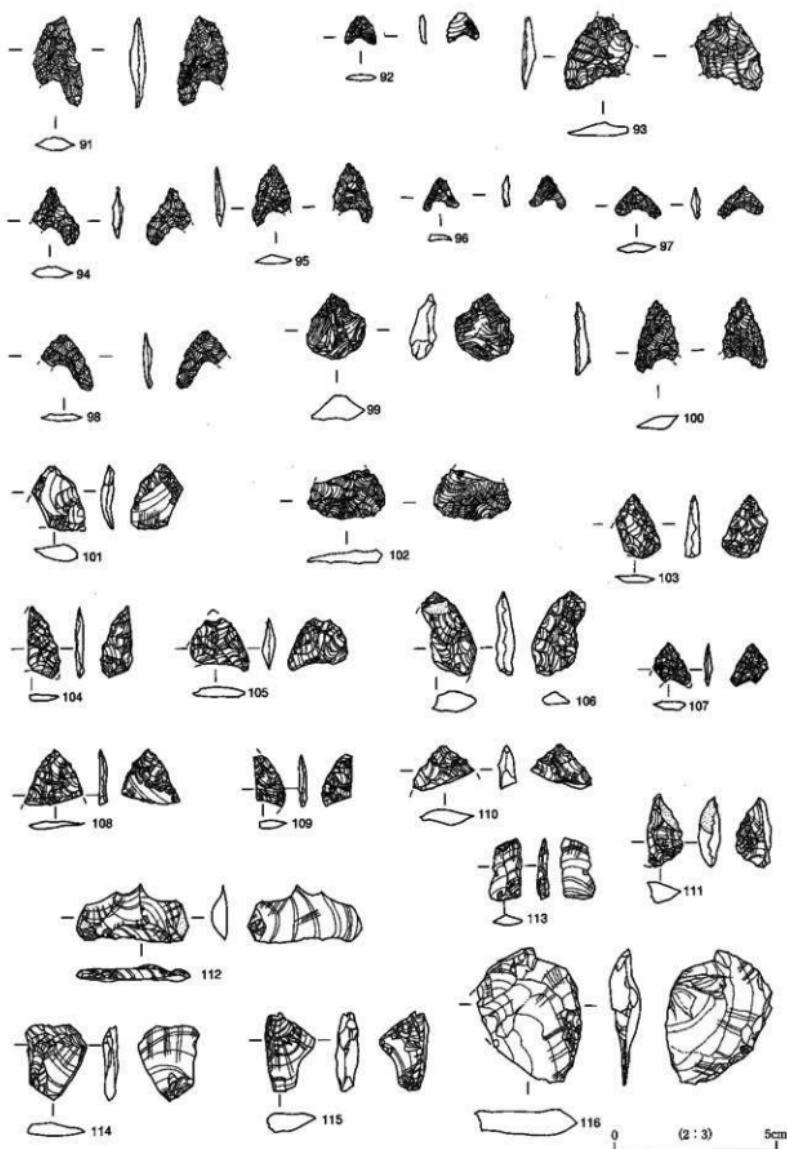
第23図 出土石器実測図2



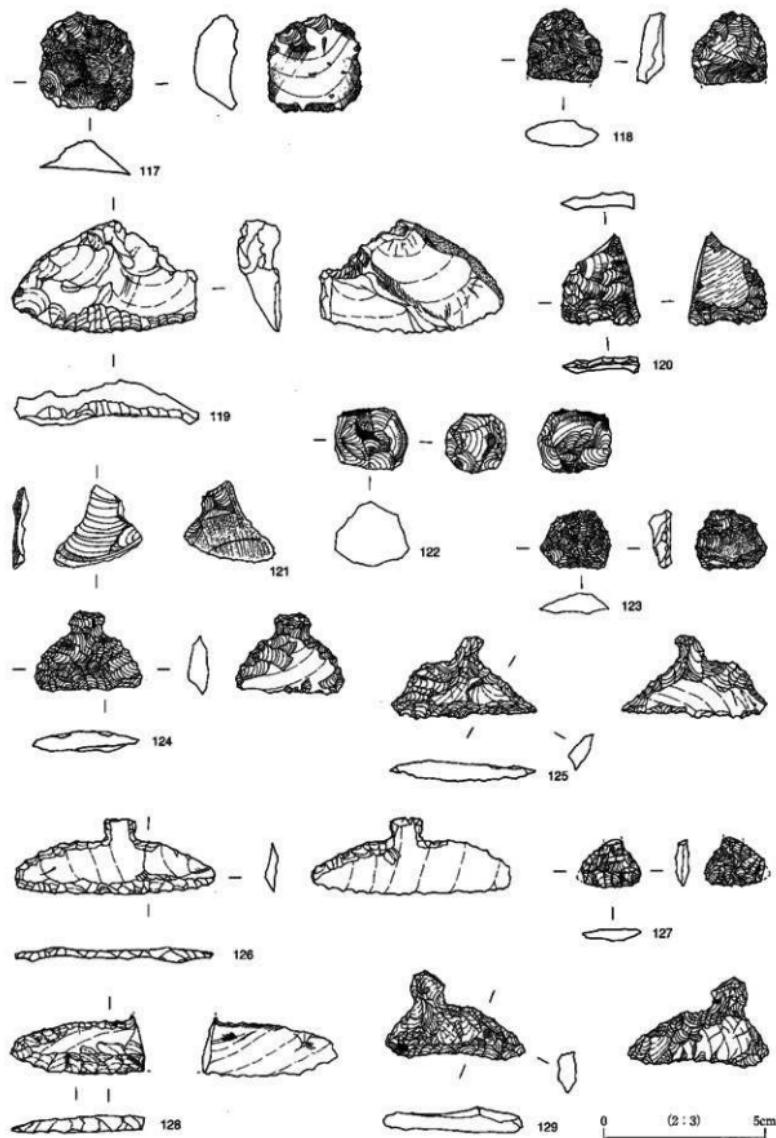
第24圖 出土石器実測図 3



第25図 出土石器実測図4



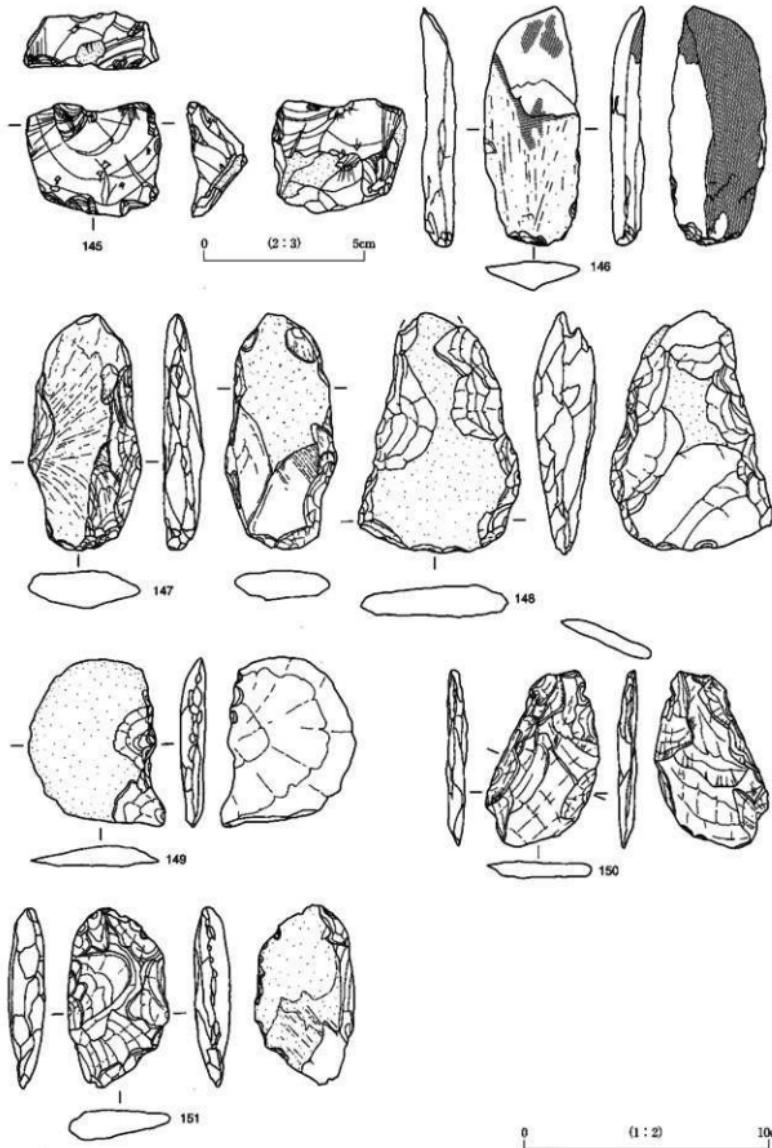
第26図 出土石器実測図 5



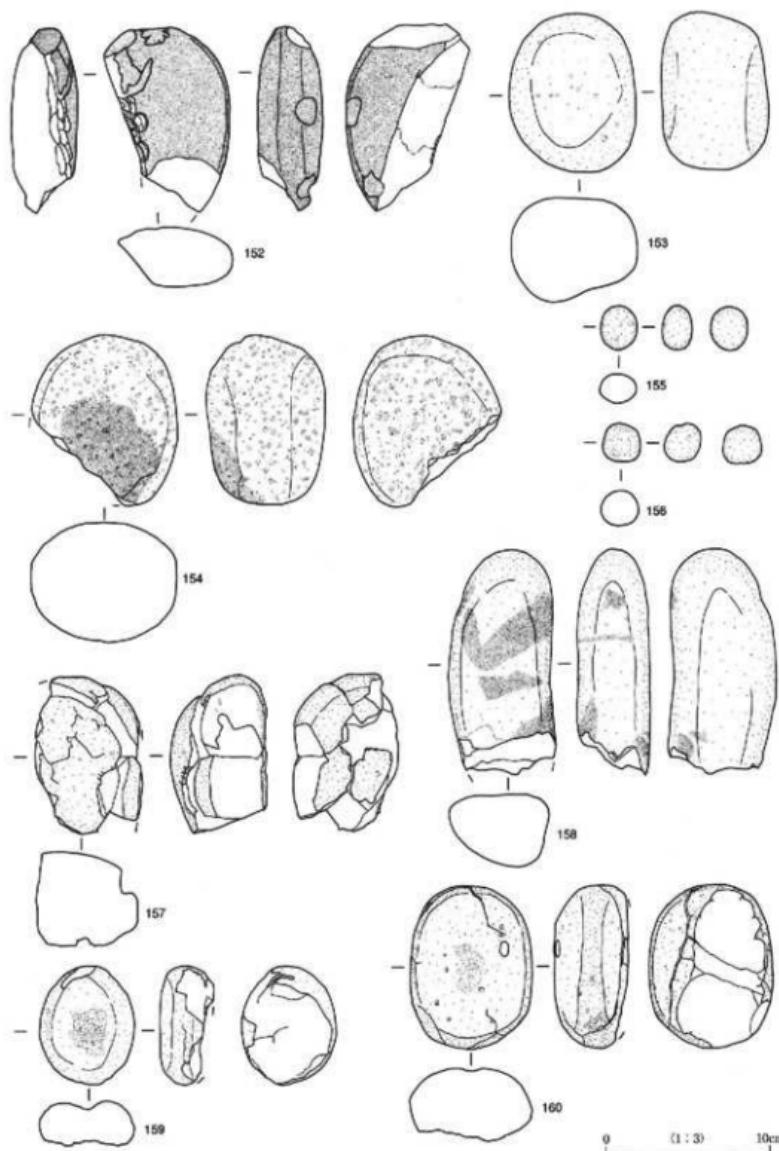
第27図 出土石器実測図 6



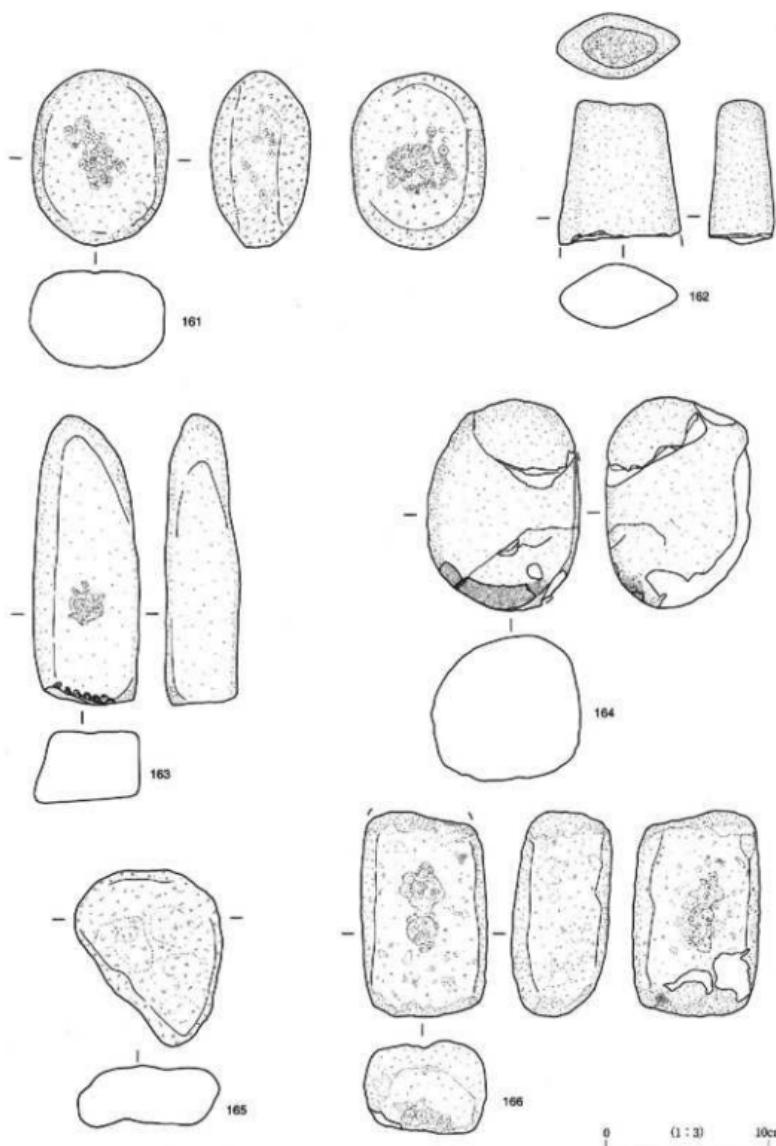
第28圖 出土石器實測圖 7



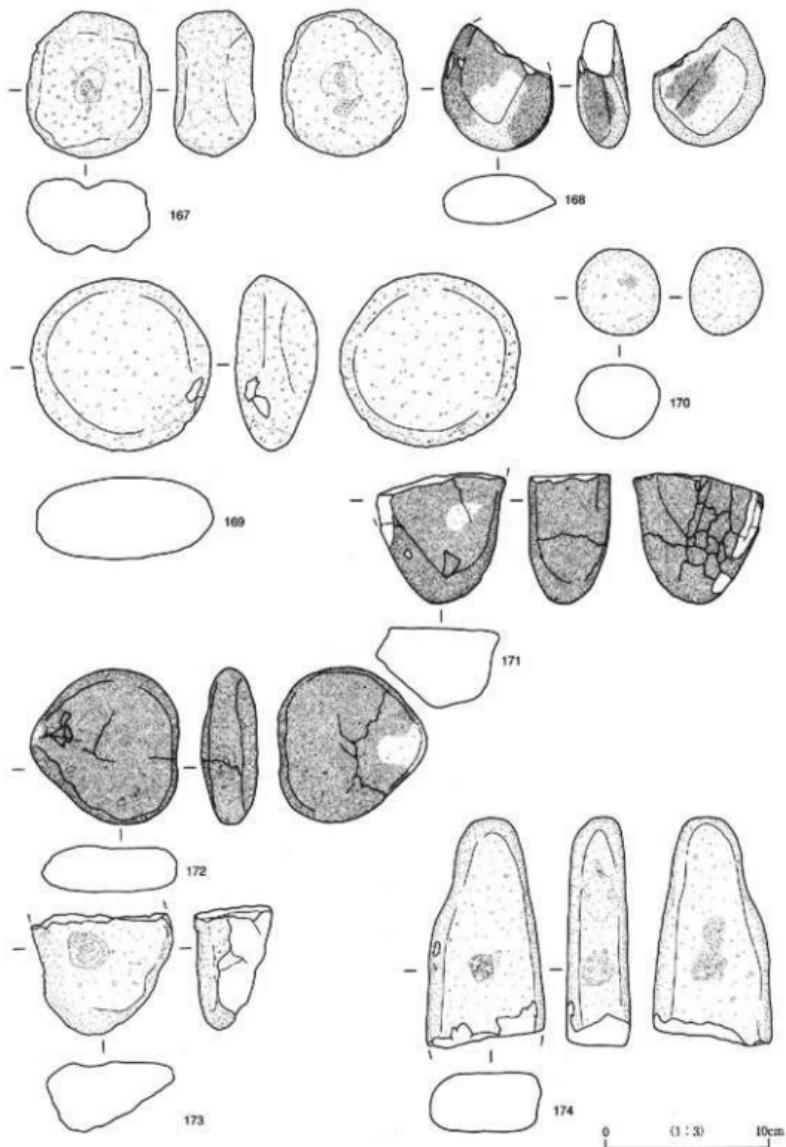
第29図 出土石器実測図 8



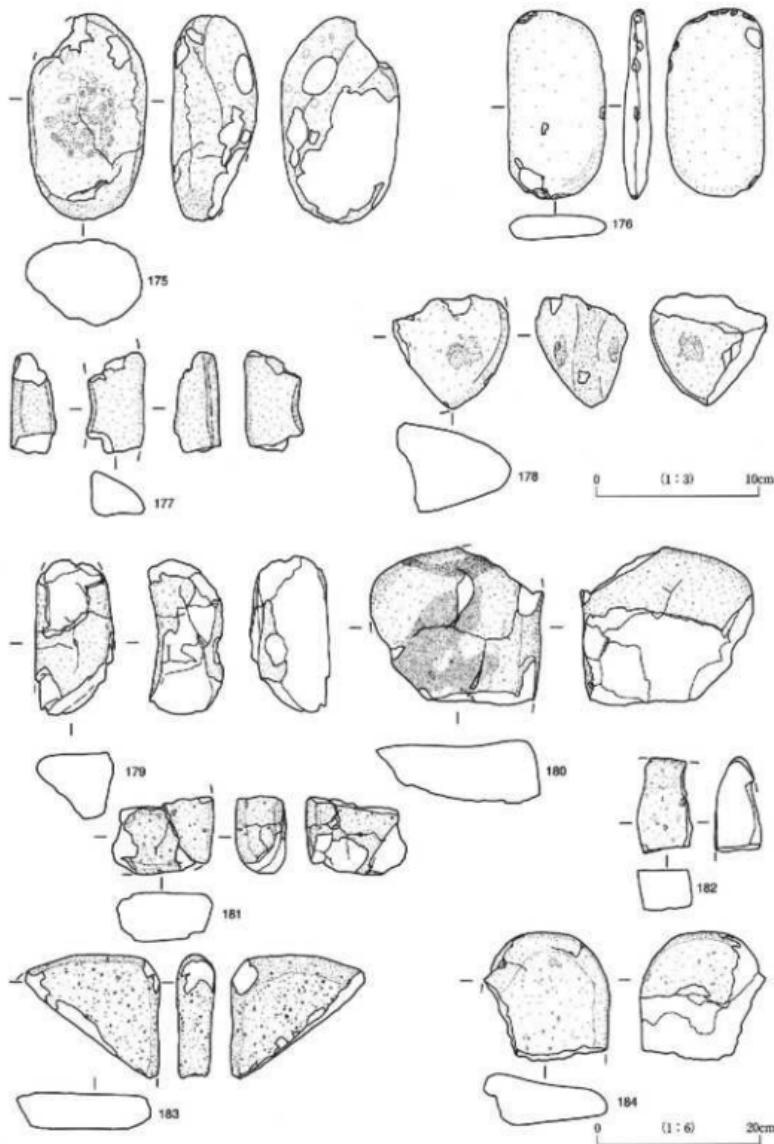
第30圖 出土石器尖測圖 9



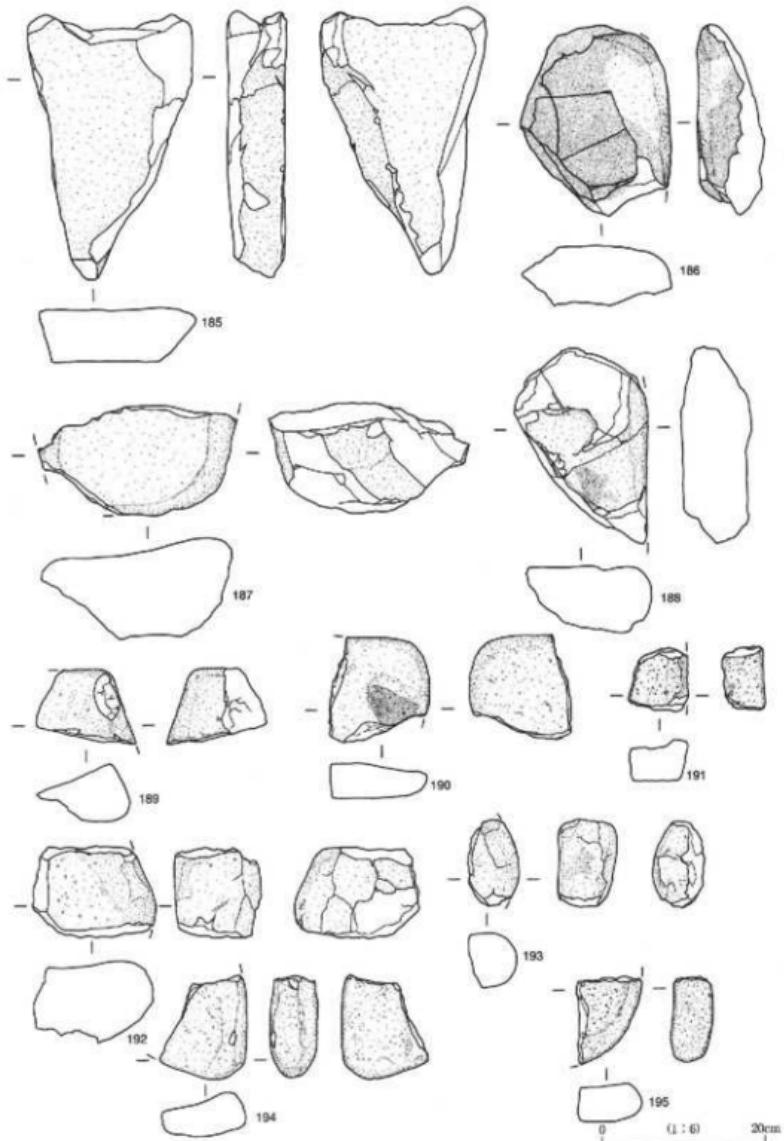
第31図 出土石器実測図10



第32图 出土石器实测图11



第33図 出土石器実測図12



第34国 出土石器実測図13

第V章 まとめ

箕輪町長岡地区は、町内でも有数の遺跡地帯として知られ、今回調査を行った荒城遺跡においても、過去に多くの遺物が確認され、縄文・古墳・中世の複合遺跡として知られてきた。しかしながら、これまでに荒城遺跡における発掘調査は行われることがなく、遺跡の詳細については不明であった。今回、老朽化した町営住宅の建替事業に先立って行われた緊急発掘調査により、初めて遺跡の一部が明らかになった。平成12年度に行われた第1次調査では、旧町営住宅造成時のものと思われる削平により、調査地の半分以上において遺跡がすでに破壊されていたものの、縄文時代前期後業の住居址、小豈穴、集石、土坑、ピットが確認され、旧町営住宅建設以前には良好な遺跡が残っていたことが明らかになった。そして、これまで箕輪町内ではあまり確認されていなかった縄文時代前期後業の遺構・遺物を確認することができたという点でも貴重な成果であった。今回の第2次調査では、調査地の一部においては第1次調査と同様に、旧町営住宅造成時のものと思われる削平により遺跡の一部が破壊されていたものの、前回を上回る遺構・遺物を確認することができた。各遺構の詳細については前章のとおりであるが、ここではこれらを総括的にまとめるところとする。

住居址は2軒確認された。このうち4号住居址は旧町営住宅の基礎の内側に位置していたため、ほぼ完全な状態で確認することができた。4号住居址は焼失住居であり、床面直上には焼失時のものと思われる焼土・炭化物・住居の垂木と思われる炭化材等が確認された。また、焼土と同じレベルからは縄文時代前期後業諸磧a式の土器片が確認され、西壁付近の床上8cm付近から出土した諸磧a式の双口土器とともに、住居使用時の遺物と考えられる。そしてその後の堆積によるとと思われる覆土からは諸磧a式・b式の土器片や石器・黒曜石が確認され、4号住居址廃絶後も、付近において生活が営まれていたものと思われる。

2号住居址は半壊状態であり、出土遺物も諸磧a及びb式の土器片が混在しているため時期の特定は難しいが、出土量から諸磧b式期に該当するものと考えたい。なお、いずれの住居址においても明確な炉を確認することができなかった。

集石は8基確認した。出土遺物からいずれも縄文時代前期後業のものと考えられる。このうち4号住居址の上に位置する1・2・3号集石や8号集石は、出土遺物から諸磧b式期の遺構と考えられる。集石の中には屋外炉と思われるものが2基確認され、中でも1号集石は良好な状態で確認され、周辺からは块状耳飾や管玉が出土している。

土坑は37基確認した。調査地が場所によって破壊されている所とそうでない所があるため、確認した土坑の位置にはバラツキが見られる。時期の詳細については、後世の破壊が及んでいる所とそうでない所が混在しているため明確でない。しかし、時期の特定ができないものを除いて、全てが縄文時代前期後業の遺構と思われ、時期不明の土坑についても、その他の時期の遺物がほとんど無いことから、同時期の遺構である可能性が考えられる。

ピットは58基確認した。土坑に比べて出土遺物の量が少ないため詳細な時期の特定はさらに難しいが、出土遺物や覆土から、時期が特定できたピットの全てが縄文時代前期後業に比定されると考えられる。

以上のように今回確認することができた遺構のうち、時期の特定が可能であった全ての遺構が、縄文時代前期後業（諸磧a又はb式期）に比定され、それ以外の時期の明確な遺構が無いことは、きわめて特筆すべきことである。ただし、繰り返しになるが、破壊の及んでいる所とそうでない所が混在しているため、遺構相互の関係や、同時期における面的な空間の広がりについては明らかにことができなかつた。

次に出土遺物についてであるが、各遺構のみならず、遺構外の上面確認・表面採取等においても大量の遺物が確認された。土器については、ほぼ完全な状態で確認することができた4号住居址の出土遺物以外は、器形の特定に及んだ土器は僅かであったが、器形が特定できない土器片の出土量は大変な量であった。これらの土器片のほとんどが縄文時代前期後業の遺物であり、中でも諸磧a及びb式期の土器片が多く確認された。

特筆すべき土器として、4号住居址から出土した双口土器がある。双口土器については、これまで塩尻市峯畠遺跡出土の中期前半のものが最古とされ、その他に茅野市米沢一本木遺跡（中期）、千葉県加曾利貝塚（後期）、茨城県陸平貝塚（後期）、同神明前貝塚（後期）などの出土例があるが、何れも中期以降のものであり、今回の出土で双口土器の出現が前期まで遡ることが明らかになった。この他に、同時期に並行する関西・東海系の北白川下層式土器片が一定量確認されたが、その出土量は圧倒的に諸磯式土器片が多い。

石器は約3,300点確認された。このうち紙面の都合上195点を本書に掲載した。石材は小型製品に関して言えば僅かに安山岩等も認められるが、ほとんどが黒曜石又はチャートであり、中でも黒曜石が圧倒的に多い。この他に製品としての石器以外にも、黒曜石の破片が大量に確認された。こうした石器及び破片の出土量の多さと、4号住居址のピット内から黒曜石のチップが大量に出土したことから、集落において黒曜石の加工が行われていた可能性が考えられる。大型製品については大半が砂岩であり、次いで安山岩が多い。

「第IV章 第5節遺構と遺物」では述べていないが、石器製作にあたり一度も剥離をされていないものを原石とし、56点を確認した。4号住居址から出土した滑石の1点を除きそのすべてが黒曜石である。そのうち、仮3号住居址も含めた4号住居址が29点と多い。その他の遺構は8点で上面確認が18点となっている。カクランによる破壊を受けている2号住居址と石器製作に使われたと思われる4号住居址8号ピットから原石の出土は無かつた。上面確認については場所によって激しくカクランを受けている所もあるため、他遺跡で報告されているような黒曜石の貯蔵場所があったかはわからないが、少なくとも調査時には黒曜石の集積は確認されなかった。

滑石1点を除いた黒曜石以外の原石が1点も確認できなかつたことは今後の遺跡内の石器製作を考察する上で重要な問題である。特にチャートに関しては剥片や製品が確認でき、本遺跡と天竜川を隔てた帶無川上流域で産出し、本流である天竜川においても入手できることから、遺跡内での石器製作に使われてもおかしくはないが、原石がないことから産出地を他に求めたほうがいいのか、また製品が在地産とするなら原石の出土がないのはどういう理由か今後の研究課題である。

また時間的な制約もあり製品の整理・分析に追われ、4号住居址8号ピットを石器製作に関する遺構であると仮定したにもかかわらず、原石の重量や大きさ、石核・剥片類との関係などについて分析していないことは片手落ちであった。石器製作に関するさまざまな視点を研究する上で絶好の機会であったが活かすことが出来なかつた。このことについては石器の考察に関する問題点として今後の課題としたい。

石製の装身具としては、玦状耳飾が2点、管玉が1点、滑石製の装身具が1点出土している。

以上、今回の調査においては縄文時代前期後業の遺構・遺物を多く確認することができた。調査面積が僅かなうえ、後世の開発による遺跡の破壊が激しいため不明な点も多く、集落の規模や変遷の把握にまでは至ることはできなかつたが、出土した遺構・遺物のほとんどが縄文時代前期後業のものであり、当地における当該期の純粹なる程度一括した資料を得ることができたことは大きな成果であった。そして何よりも、一度建設された建物の下から貴重な資料を多く確認できたことは、発掘調査の重要性を再確認する意味でも、大変貴重な成果であつた。

調査にあたっては、何分にも不勉強のため十分な調査ができたとは言えず、本報告の編集についても不十分さは了承されたい。この点多くの先生方のご協力をいただき、調査を実施することができましたことをこの場をお借りして御礼申し上げます。特に報道にあたっては、樋口昇一先生をはじめ多くの先生方にお忙しい中ご足労をいただきました。心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、本事業に多大なご理解とご協力をいただきました地元長岡区の皆様、新城常会の皆様、そして直接調査にご尽力いただきました調査関係者の皆様に、本書の刊行をもって改めて御礼申し上げます。

参考文献（著者名50音順）

- 赤塙 仁
伊那市史編纂委員会
今村啓爾
加藤晋平・鶴丸俊明
加藤晋平・鶴丸俊明
木曾郡大滝村教育委員会
〔動〕長野県埋蔵文化財センター
〔動〕長野県埋蔵文化財センター
〔動〕長野県埋蔵文化財センター
〔動〕長野県埋蔵文化財センター
〔動〕長野県埋蔵文化財センター
〔動〕長野県埋蔵文化財センター
白石浩之
- 鈴木敏昭
鈴木道之助
谷口康浩
長沢宏昌
長野県教育委員会
長野県教育委員会
長野県考古学会
長野県史刊行会
中村龍雄
松田光太郎
松田光太郎
箕輪町教育委員会
箕輪町教育委員会
箕輪町教育委員会
箕輪町教育委員会
箕輪町誌編纂刊行委員会
宮田村教育委員会
牛込村教育委員会
山形村教育委員会
- 1996 「諸磯 b・c 土器の変遷過程」『長野県考古学会誌』
1984 「伊那市史 歴史編」
1981 「施文順序からみた諸磯式土器の変遷」『考古学研究27-4』
1980 「図録 石器の基礎知識Ⅰ先土器（上）」
1980 「図録 石器の基礎知識Ⅱ先土器（下）」
1982 「崩越遺跡発掘調査報告書」
1993 「中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書11北村遺跡」
1996 「長野県の考古学」
1997 「中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書15石川条里遺跡」
1998 「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書4 松原遺跡」
2000 「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書5 松原遺跡」
1983 「諸磯 b 式土器の形式細分とその問題点」『人間・遺物・遺跡－我が考古学論集』
1980 「諸磯 b 式土器の構造とその変遷（再考）」『土曜考古2号』
1981 「図録 石器の基礎知識Ⅲ縄文」
1989 「諸磯式土器様式」『縄文土器大観1』 小学館
1993 「有孔土器の変遷（有孔土器理解のための序説）」『広島大学文学部考古学研究室』
1982 「長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書」原村その5
2002 「広城農園地農道整備事業八ヶ岳地区埋蔵文化財発掘調査報告書」
一茅野市内-
1994 「中部高地の考古学IV」
1988 「長野県史 考古資料編 全1巻（4） 遺構・遺物」
1985 「中部高地 縄文土器文様（完）」
1992 「浮島式土器の成立について～東関東における縄文時代前期後半の土器文様の伝統～」『古代第93号』
1993 「諸磯 a 式土器の文様とその変遷」『古代文化6月号』
1991 「古神遺跡」
1992 「郷沢遺跡」
1998 「仲町遺跡」
2001 「荒城遺跡」
1986 「箕輪町誌 第2巻 歴史編」
1990 「中越遺跡発掘調査報告書」
1978 「丸山遺跡」
1997 「淀の内遺跡」

図 版



調査地全景（南西から）



調査区土層堆積状況



2号住居址（西から）



4号住居址（西から）



4号住居址 双口土器出土状況（北から）



1号集石



2号集石



3号集石



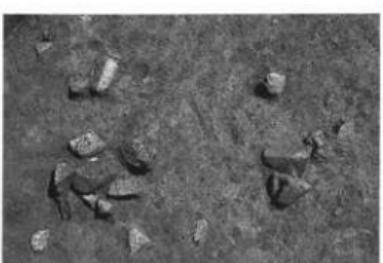
4号集石



5号集石



6号集石



7号集石



8号集石



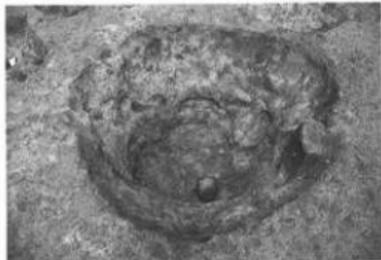
18号土坑



19号土坑



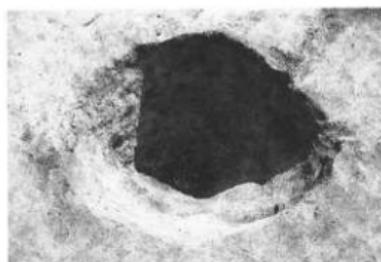
26号土坑



30号土坑出土状况



30号土坑完掘



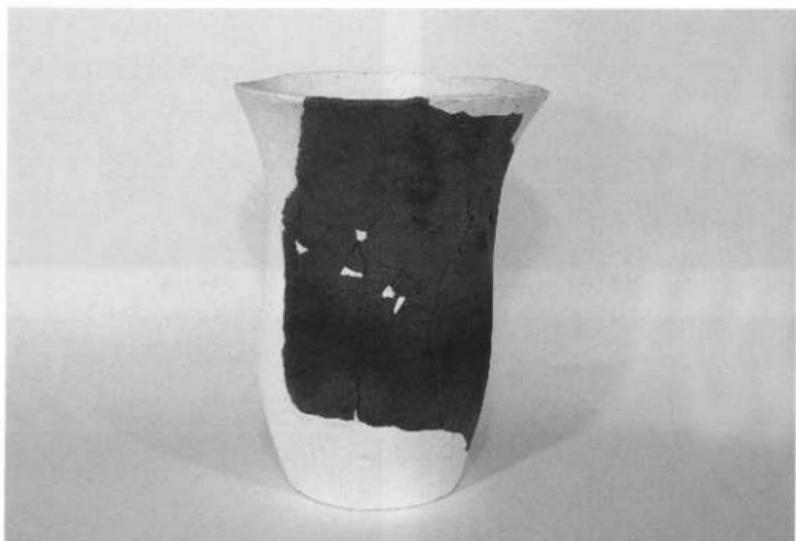
34号土坑



35号土坑



36号土坑



4号住居址出土土器 6



19号土坑出土土器 18



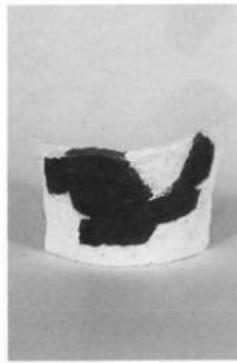
2



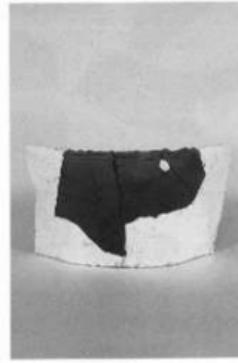
3



4



5



9



10



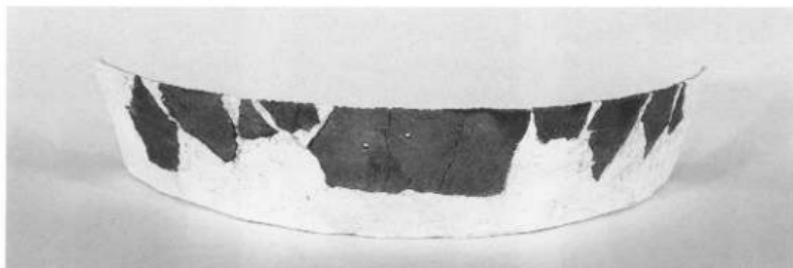
12



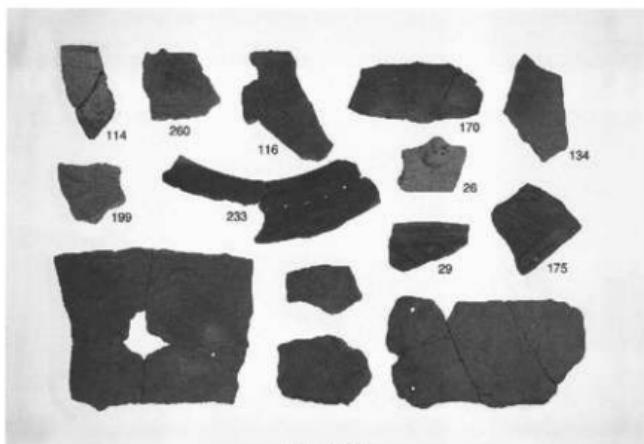
20



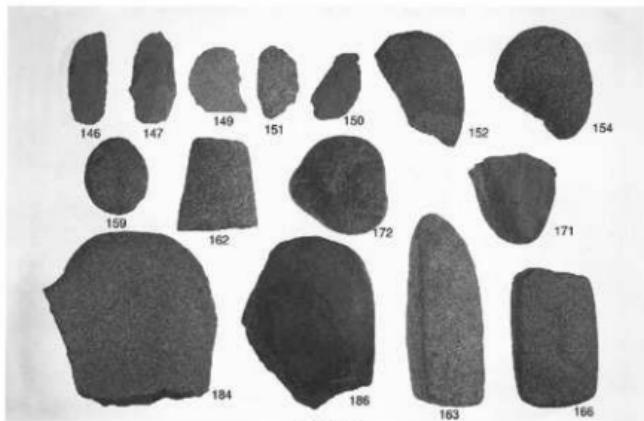
4号住居址出土炭化材



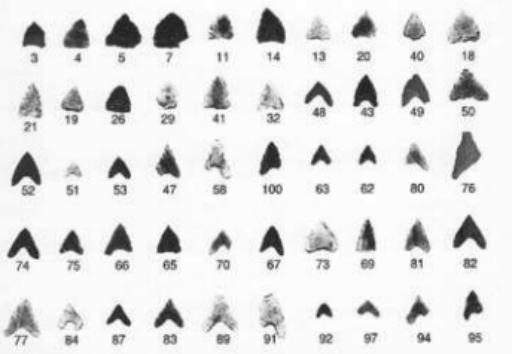
出土北白川下層式土器 11



出土土器片



出土石器

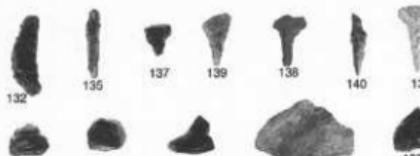


出土石鏃

出土石鏃



出土块状耳飾
141 143

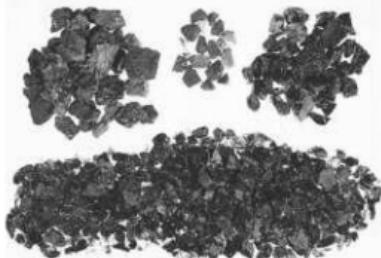


出土管玉、裝飾品

出土石匙・石錐・石核・スクレイバー



4号住居址8号ピット出土石皿・台石



出土黒曜石など

報告書抄録

ふりがな	あらじょういせき							
書名	荒城遺跡							
副書名	平成13年度箕輪町営住宅建替事業に伴う埋蔵文化財第2次緊急発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	柴秀毅・根橋とし子・池上賢司							
編集機関	箕輪町教育委員会							
所在地	〒399-4601 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪10.291番地						TEL 0265-79-3111㈹	
発行年月日	2002年3月29日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 ° °'	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
あらじょういせき 荒城遺跡	ひがのけんかみいなぐん 長野県上伊那郡 みのわまちおおあざ 箕輪町大字 ひがしんのかばんち 東箕輪769番地3他	20383	132	35° 55' 20"	138° 00' 04"	2001.05.11 ～ 2001.08.23	650m ²	箕輪町 営住宅建 替事業
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
荒城	集落跡	縄文時代 (前期後業)	住居址 集石 土坑 ピット	2棟 8基 37基 58基	縄文土器 石鐵 石匙 石錐 玦状耳飾 管玉 台石・石皿 磨石・凹石・蔽石 剥片	縄文時代前期後業の 集落跡の一端を確認 した。 4号住居址は焼失家 屋であり、国内最古 級と思われる双口土 器が出土した。		

荒城遺跡

平成13年度箕輪町営住宅建替事業に
伴う埋蔵文化財第2次緊急発掘調査報告書

平成14年3月29日 印刷

平成14年3月29日 発行

発行所 長野県上伊那郡箕輪町教育委員会
〒399-4601
長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪10,291番地
TEL 0265-79-3111 FAX 0265-79-6368

印刷所 株式会社小松総合印刷
〒396-0111 長野県伊那市大字美郷10243-4
TEL 0265-72-3129 FAX 0265-73-6650